第 2 回毛呂山町小・中学校のあり方検討委員会資料

令和４年９月３０日（金）

１　第 2 回毛呂山町小・中学校のあり方検討委員会資料・・・・・・・・・・・・・・・・　１
２　教育委員会だより「ゆずの里通信」No14 No16・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　９
３　毛呂山町立小中学校に関するアンケートについて・・・・・・・・・・・・・・・・・１５
　　（小中学校別集計結果）
４　未来を拓く人づくり毛呂山町の小中一貫教育・・・・・・・・・・・・・・・・・・・２５
５　単学級と複数学級のメリットとデメリット・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・３７
６　小中一貫教育の導入状況調査について・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・４１

第2回毛呂山町小・中学校のあり方検討委員会資料

1　小中学校の適正な規模と適正な配置

（公立小学校・中学校の適正規模・適正配置等に関する手引　平成27年1月27日文部科学省）

・適正な規模・・・小学校では1学年2学級以上、中学校では9学級以上が望ましい

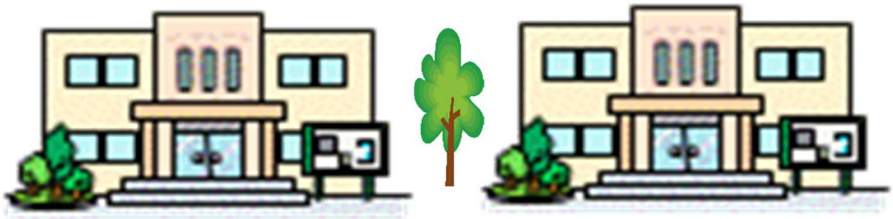
・適正な配置・・・小学校で4km以内、中学校で概ね6km以内がおおよその目安として妥当

2　小中一貫教育をおこなう施設形態

施設一体型のイメージ

小中学校が同じ校舎、または同じ敷地内

施設隣接型のイメージ



小中学校が道路やフェンスなどで隔てる

施設分離型のイメージ

小中学校が離れて立地

３　教育委員会が考えた学校の形態と開設目標年度

最も望ましい学校施設環境は、毛呂山中学校区・川角中学校区ごとの中学校校舎を中心とした「施設一体型校舎」。 開設目標年度は、毛呂山中学校区は令和10年度とし、川角中学校区は令和8年度とする。 （未来を拓く人づくり（小中一貫教育）プロジェクト基本方針） （毛呂山町公共施設個別施設計画）

《理由》

ア　「未来を拓く人づくり（小中一貫教育）プロジェクト」の効果を最大に発揮できる

イ　中学校の余裕教室が活用できる

ウ　教職員の負担軽減を図ることができる

エ　安全・安心な教育環境を確保できる

オ　中学校の配当教員数が減少してしまう以前の年度

４　当初計画を見直した理由

ここ数年で小学校への35人学級導入やコロナ禍による分散授業が推進されるなど、教育に求められる施設環境が大きく変化し、児童生徒の安全安心な環境を確保するために、必要な教室数が当初よりも増加することが見込まれるようになりました。このため、児童生徒にとって現在の状況下で最も良い施設環境は何かを再検討する必要が生じました

5　施設形態による予測

（毛呂山中学校区令和10年度、川角中学校区令和8年度の予測）

	施設一体型	施設分離型
開設時期	毛呂山中学校区･･･令和10年度 川角中学校区･･･令和8年度	（既存の小中学校6校を存続）
児童生徒数の予測	毛呂山中学校区 726人 （小学生455人　中学生271人） 川角中学校区713人 （小学生439人　中学生274人）	毛呂山中学校271人 毛呂山小学校261人 泉野小学校194人 川角中学校274人 川角小学校246人 光山小学校193人
学級数の予測	毛呂山中学校区 26学級 （小学校17学級　中学校9学級） 川角中学校区25学級 （小学校16学級　中学校9学級）	毛呂山中学校9学級 毛呂山小学校11学級 泉野小学校7学級 川角中学校9学級 川角小学校10学級 光山小学校7学級
配当教員数の予測	毛呂山中学校区 38人 （小学校21人　中学校17人） 川角中学校区37人 （小学校20人　中学校17人）	毛呂山中学校17人 毛呂山小学校15人 泉野小学校10人 川角中学校17人 川角小学校13人 光山小学校10人

※学級数は特別支援学級を除く。

※配当教員数は校長教頭を含む、養護教諭は除く。

6　小中学校のクラス数の予測　（特別支援学級は除きます。R5 以降は R4.5.1 時点の予測）

（単位:クラス）

	R4	R5	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R12	R13	R14	R15	R16	R17	R18
毛呂山小学校	12	12	12	12	12	12	11	11	10	9	8	7	7	6	6
川角小学校	12	12	12	11	10	9	8	8	8	8	8	8	8	7	6
光山小学校	6	7	7	7	7	7	7	6	6	6	6	6	6	6	6
泉野小学校	11	11	10	10	9	8	7	7	7	7	7	7	7	6	6
毛呂山中学校	11	10	10	9	9	9	9	9	8	7	6	6	6	6	6
川角中学校	9	9	9	9	9	9	8	8	7	6	6	6	5	5	5

《中学校区ごとに、中学校校舎に小中学校を集約した場合》　（単位:クラス）

		R4	R5	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R12	R13	R14	R15	R16	R17	R18
毛呂中	小学校	18	18	18	18	18	18	17	17	16	15	14	13	13	12	12
	中学校	11	10	10	9	9	9	9	9	8	7	6	6	6	6	6
	計	29	28	28	27	27	27	26	26	24	22	20	19	19	18	18
川角中	小学校	18	18	18	17	16	15	14	13	12	12	12	12	12	12	12
	中学校	9	9	9	9	9	9	8	8	7	6	6	6	5	5	5
	計	27	27	27	26	25	24	22	21	19	18	18	18	17	17	17

※クラス数は児童生徒数によって決まります。

◎中学校の普通教室の数（特別支援学級を含む）

毛呂山中学校・・・２２教室　　川角中学校・・・・２５教室

7　配当基準による小中学校の教員数の予測　（校長教頭を含み、養護教諭は除きます。R5 以降は R4.5.1 時点の予測）

（単位:人）

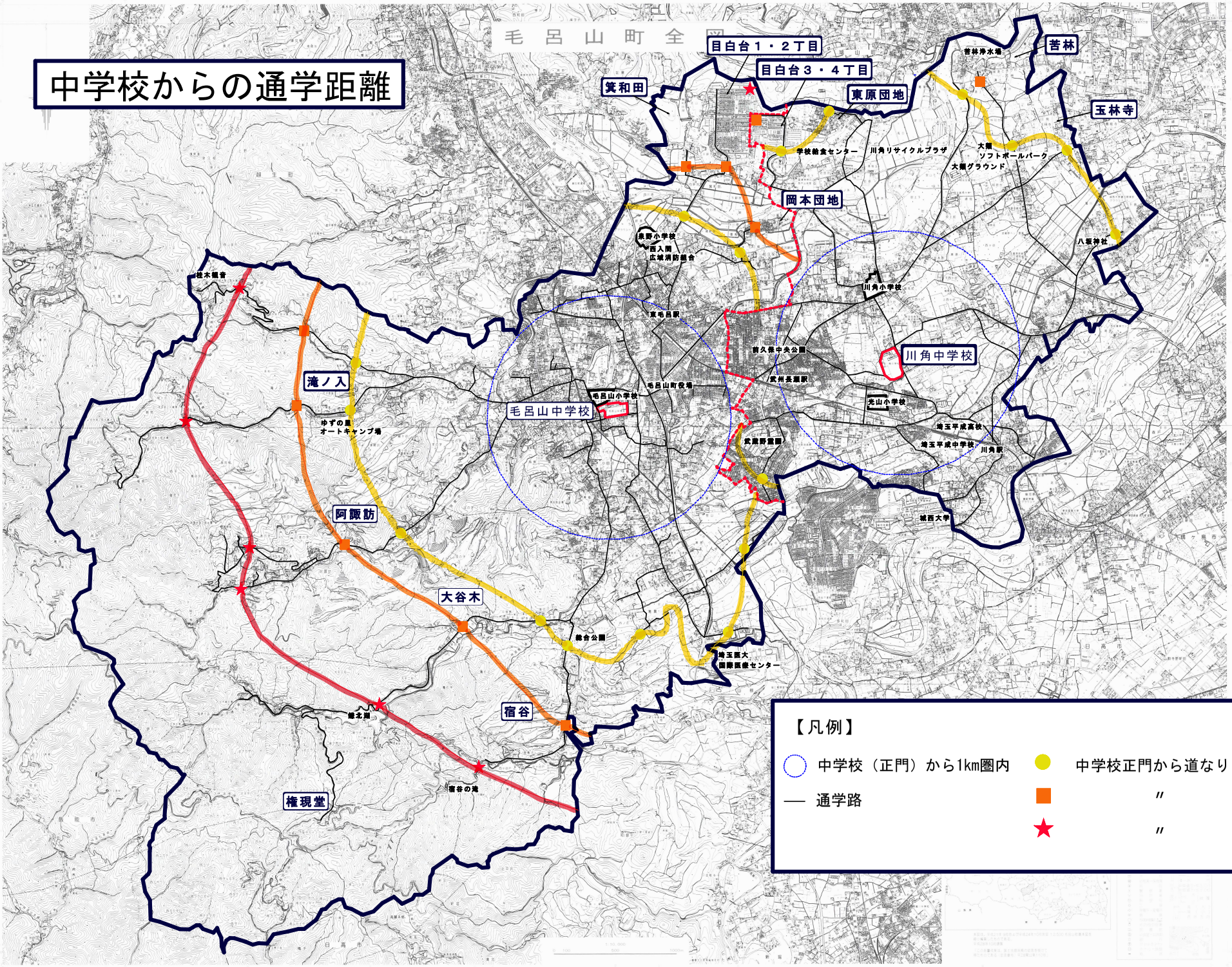
	R4	R5	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R12	R13	R14	R15	R16	R17	R18
毛呂山小学校	16	16	16	16	16	16	15	15	13	12	11	10	10	9	9
川角小学校	16	16	16	15	13	12	11	11	11	11	11	11	11	10	9
光山小学校	9	10	10	10	10	10	10	9	9	9	9	9	9	9	9
泉野小学校	15	15	13	13	12	11	10	10	10	10	10	10	10	9	9
毛呂山中学校	19	18	18	17	17	17	17	17	15	14	12	12	12	12	12
川角中学校	17	17	17	17	17	17	15	15	14	12	12	12	11	11	11

《中学校区ごとに、中学校校舎に小中学校を集約した場合》　（単位:人）

		R4	R5	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R12	R13	R14	R15	R16	R17	R18
毛呂中	小学校	22	22	22	22	22	22	21	21	20	19	18	17	17	16	16
	中学校	19	18	18	17	17	17	17	17	15	14	12	12	12	12	12
	計	41	40	40	39	39	39	38	38	35	33	30	29	29	28	28
川角中	小学校	22	22	22	21	20	19	18	17	16	16	16	16	16	16	16
	中学校	17	17	17	17	17	17	15	15	14	12	12	12	11	11	11
	計	39	39	39	38	37	36	33	32	30	28	28	28	27	27	27

※配当基準による教員数は、クラス数によって決まります。

中学校からの通学距離


毛呂山町全図
目白台１・２丁目
目白台３・４丁目
苦林
苦林浄水場
笹和田
東原団地
玉林寺
学校給食センター
川角リサイクルプラザ
大類ソフトボールパーク
大類グラウンド
岡本団地
泉野小学校
西入間広域消防組合
八坂神社
桂木観音
川角小学校
東毛呂駅
前久保中央公園
川角中学校
武蔵長瀬駅
滝ノ入
毛呂山町役場
毛呂山小学校
毛呂山中学校
光山小学校
ゆずの里オートキャンプ場
埼玉平成高校
埼玉平成中学校
武蔵野運動
川角駅
阿諏訪
城西大学
大谷木
総合公園
埼玉医大国際医療センター
宿谷
能北湖
宿谷の滝
権現堂
【凡例】
中学校（正門）から1km圏内
通学路
中学校正門から道なり２．５ｋｍ
〃　３．０ｋｍ
〃　４．０ｋｍ

Board of Education in Moroyama

教育委員会便り　ゆずの里通信

令和2年7月17日発行
No.14
毛呂山町教育委員会
問合せ049-295-2112(内線 510)

今後の小中学校のあり方について

～施設一体型小中一貫校を目指して～

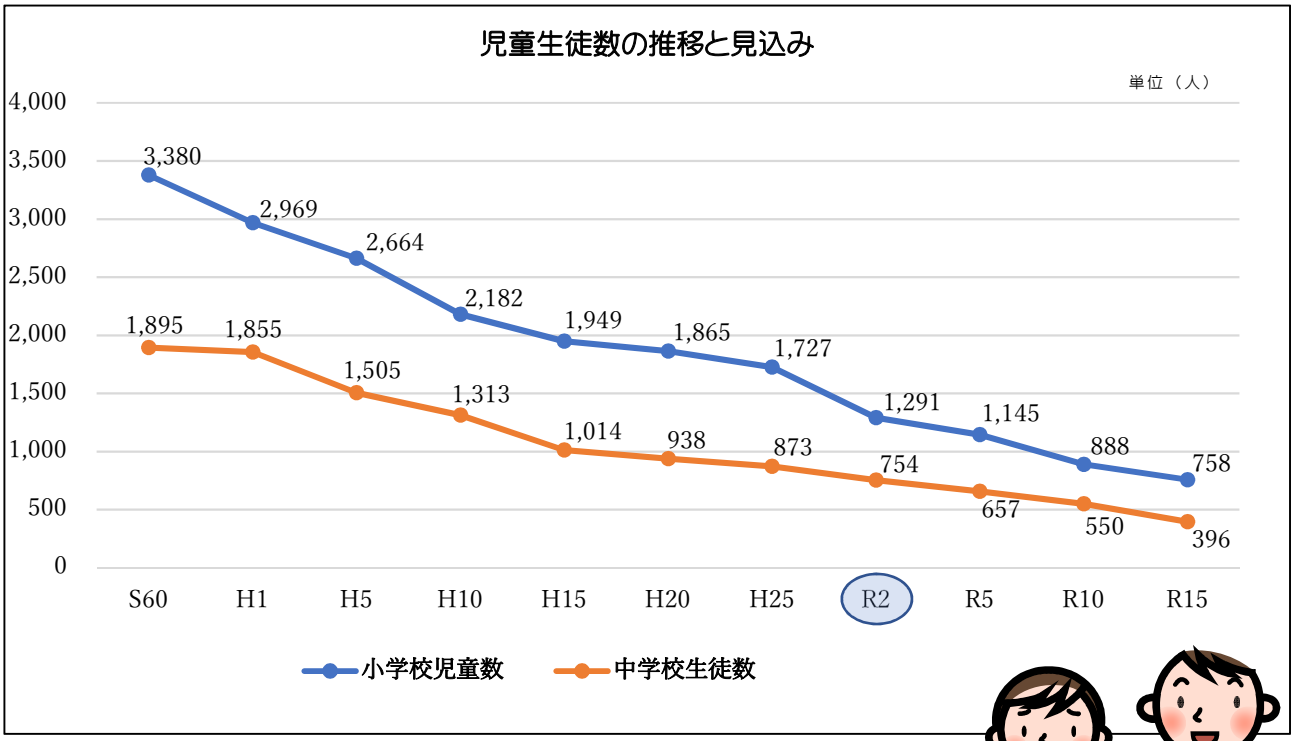
保護者の皆様方には、新型コロナウイルス感染症拡大防止措置のための臨時休校や、再開後の学校運営に対しご理解とご協力をいただき深く感謝いたします。

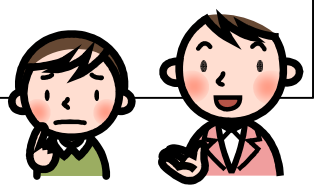
今回は、毛呂山町の小中学校における課題と、子どもたちのためにより良い小中学校のあり方についてお知らせします。

町立小・中学校の現状

1　児童生徒数のこれまでの推移と今後の見込み

全国的に少子化が進む中、毛呂山町の児童や生徒の数も減少しています。令和２年度の児童生徒数は、３５年前の昭和６０年度に比較すると６０％以上減少し、令和１５年度にはさらに４０％以上減少する見込みです。





２　現在の学級数と教員数、今後の見込み

今年度の光山小学校は５学年が１クラス（単学級）で、令和１５年度には全ての小学校が単学級になってしまう見込みです。また学級数が減ると教員の数も減り、少人数の教員で学校運営を行わなければなりません。

学校名	R2		R5		R10		R15	
	学級数（ｸﾗｽ）	教員数（人）	学級数（ｸﾗｽ）	教員数（人）	学級数（ｸﾗｽ）	教員数（人）	学級数（ｸﾗｽ）	教員数（人）
毛呂山小学校	12	16	12	16	11	15	6	9
川角小学校	12	16	12	16	11	15	6	9
光山小学校	7	10	8	11	6	9	6	9
泉野小学校	12	16	10	13	9	12	6	9
毛呂山中学校	12	20	10	18	9	17	6	12
川角中学校	9	17	9	17	8	15	6	12

※教員数は現在の国の教員配当基準による試算です
※特別支援学級をのぞきます

学校の小規模化によるメリットとデメリット

児童生徒数が減少して学校が小規模化すると、次のようなメリットやデメリットが生じます。

主なメリット

- 運動場や体育館、特別教室が余裕をもって使えます。
- 教材などを一人ひとりに行き渡らせやすくなります。

主なデメリット

- 小学校では卒業まで一度もクラス替えができません。
- 中学校では部活動の種類が少なくなります。
- 教科担任教員が配置しづらくなります。

小中学校の校舎

毛呂山町の校舎は昭和４０年代から５０年代にかけて建築されました。すでに５０年を経過した校舎もあり、今後の維持費に多額の費用がかかります。

毛呂山小学校・・・S 46 年度築	川角小学校・・・・・S 42 年度築
光山小学校・・・・・S 49 年度築	泉野小学校・・・・・S 54 年度築
毛呂山中学校・・・S 47 年度築	川角中学校・・・・・S 49 年度築

※各校とも現在の校舎のうち、一番古い校舎の建築年度です

教育委員会の取り組み　～プロジェクト基本方針～

1　未来を拓（ひら）く人づくり（小中一貫教育）プロジェクト基本方針

町教育委員会では、より良い教育と教育環境を充実させるため、平成２５年度から町内各種団体から選出された方に検討していただきました。そしてその報告をもとに平成３０年度に「未来を拓（ひら）く人づくり（小中一貫教育）プロジェクト基本方針」（以下プロジェクト基本方針）を策定しました。

2　コミュニティ・スクールの推進

小中一貫教育を推進するためには、保護者や地域住民の方々が学校の運営にかかわる「コミュニティ・スクール」の推進が欠かせません。町では令和元年度から全ての小中学校でコミュニティ・スクールが導入されています。

※今年度はコロナウイルス感染症拡大防止のため中止

プロジェクト基本方針が目指す小中一貫教育

プロジェクト基本方針が目指す小中一貫教育は、同じ中学校区の小中学校区を「ひとつの学園」として意識し、小・中学校９年間の義務教育を一貫して連続性のあるものとして指導してくものです。

具体的なねらい

- 連続性のある９年間の教育課程によって、学力の向上と「いのちの教育」を通して「生きる力」を育成します。
- 中学校入学時の「中１ギャップ」の解消を目指します。
- 小中学校教職員の相互理解を進め、学習指導等の充実、改善を図ります。
- 学校と家庭・地域の協働体制をつくり教育環境の充実を図ります。

中学校区ごとの小中一貫校の“かたち”

1　小中一貫校の“かたち”

プロジェクト基本方針を推進するには、適正規模で適正配置である「小中一貫校」の整備が必要です。小中一貫校のかたちは中学校区ごとの「施設一体型」「施設隣接型」「施設分離型」の３種類があります。

2　最も効果的な「施設一体型」小中一貫校

プロジェクト基本方針を最も効果的に推進するには、校舎に全９学年あり、組織・運営ともに教職員が一体となる「施設一体型」小中一貫校が最も望ましいかたちです。大規模改修工事が終了している中学校ごとに小中学校を集約すると、同じ敷地のため教職員の負担が軽減され、安全安心な教育環境を確保できます。

施設一体型小中一貫校の開始目標年度

令和元年度に策定された毛呂山町公共施設個別施設計画において示した、施設一体型小中一貫校の開始目標年度は次のとおりです。

開始目標年度：令和１０年４月１日

毛呂山中学校区
（毛呂山中学校・毛呂山小学校・泉野小学校）

開始目標年度：令和８年４月１日

川角中学校区
（川角中学校・川角小学校・光山小学校）

この開始目標年度は、教科担任制をとる中学校でも、施設一体型小中一貫校により小中学校の教員が一体となり安定して授業がおこなえることを重視し、周知期間や準備期間を考慮して設定しました。

今後のこと

授業のこと、学校行事のこと、校舎のこと、学区や通学路、跡地利用のことなど、小中学校を集約するには決めなければならないことが数多くあります。今後は施設一体型小中一貫校を目指して、新型コロナウイルス感染症の状況を踏まえながら広聴会（広く町民の意見を聴く会）を開催するとともに、これからも学校からの通知や広報などでお知らせしてまいります。

Board of Education in Moroyama

教育委員会便り **ゆずの里通信**

令和4年4月28日発行
No.16
毛呂山町教育委員会
問合せ 049-295-2112(内線 510)
E-mail ksoumu@town.moroyama.lg.jp

施設一体型小中一貫校の再検討について

～子どもたちにより良い教育と施設環境を～

保護者の皆様方には、お子様のご入学、ご進級おめでとうございます。コロナ禍の中、常日頃から学校運営に対し、ご理解とご協力をいただき深く感謝いたします。

さて、教育委員会で周知しご意見をいただいてきた、中学校区ごとの施設一体型小中一貫校の開設について、昨今の社会環境の変化を考慮し再検討することとなりましたので、今までの経緯や理由、今後のことなどをお知らせします。

1　教育をめぐる課題と解決に向けて

全国的に少子化が進む中、毛呂山町の児童生徒数も減少しています。このため、小学校では単学級が進行してしまう、また中学校ではクラス数が減り配当教員数が減少してしまうなどの懸念が生じています。一方、小中学校校舎の多くは昭和４０年代から５０年代にかけて建築されたものが多く、老朽化が進行しています。

教育委員会では、これらの課題を解決し、より良い教育と施設環境を充実させるため、平成２５年度から町内各種団体から選出された方々に検討していただきました。そしてその報告をもとに、平成３０年度に「未来を拓（ひら）く人づくり（小中一貫教育）プロジェクト基本方針」（以下、プロジェクト基本方針）を策定しました。そしてこのプロジェクト基本方針の根幹である小中一貫教育を充実させるため、保護者や地域の方々に協力をいただきながらコミュニティ・スクールを推進することとしました。

2　施設一体型小中一貫校の開設案と教育環境の大きな変化

小中一貫教育を進める上での小中一貫校の“かたち”は、「施設一体型」「施設隣接型」「施設分離型」の３種類がありますが、教育委員会では、プロジェクト基本方針を最も効果的に推進するには、校舎に全９学年があり教職員が一体となる「施設一体型」小中一貫校が望ましいと判断しました。そして大規模改修工事が終了している両中学校にそれぞれ小学校２校を集約し、その開設を川角中学校区は令和８年度、毛呂山中学校区は令和１０

年度に目指すこととしました。この考えを、保護者をはじめ町民の皆様にお知らせし、ご意見をうかがう広聴会を令和２年度から開催してきたところです。

一方、プロジェクト基本方針を策定した平成３０年度以降、教育を取り巻く環境は大きく変化しました。ここ数年の新型コロナウイルス感染症の流行は社会全体の変化を促し、人々は新しい生活様式によって行動するようになりました。学校教育においても、密を避けるための分散授業や、きめ細かな指導を可能とする指導体制と安全・安心な教育環境を確保するため、小学校の３５人学級が段階的に導入されることとなりました。

３　より良い学校の“かたち”を再検討

施設一体型小中一貫校の開設については、平成３０年度にプロジェクト基本方針を策定してから、広聴会などで多くの方々から意見をいただいてきましたが、ここ数年の社会的な状況や教育をめぐる環境は大きく変化しました。教育委員会ではこの変化に対応し、子どもたちにより良い教育環境を確保するためには、施設形態や時期なども含め、もう一度学校のあり方を再検討することが適当であるとしました。

今年度は、子どもたちにとってより良い学校のあり方について、教育環境が変化したことを踏まえたご意見をうかがう「毛呂山町小・中学校のあり方検討委員会」を開催します。内容などについては、ゆずの里通信などで今後も周知してまいります。

毛呂山町小･中学校のあり方検討委員会の公募委員を募集します

内容：今年度に４回開催する予定の検討委員会で、子どもたちにとってより良い学校環境について意見を述べていただきます。

人数：５名

対象：令和４年４月１日現在で１８歳以上の町内在住の人
（町行政委員会委員、町職員は除きます）

選考：書類選考により決定

申し込み期間：令和４年５月９日（月）～令和４年５月３１日（火）

※詳細は表題問合せ先まで、または広報５月号、町ホームページをご覧ください。
URL　https://www.town.moroyama.saitama.jp/

毛呂山町立小中学校に関するアンケートについて
（小中学校別集計結果）

平成２８年１２月
毛呂山町教育委員会

回答率について

学校名	家庭数	回答数	回答率
毛呂山小学校	319人	245人	76.8%
川角小学校	314人	181人	57.6%
光山小学校	211人	161人	76.3%
泉野小学校	347人	259人	74.6%
小計	1,191人	846人	71.0%

学校名	家庭数	回答数	回答率
毛呂山中学校	455人	281人	61.8%
川角中学校	360人	279人	77.5%
小計	815人	560人	68.7%

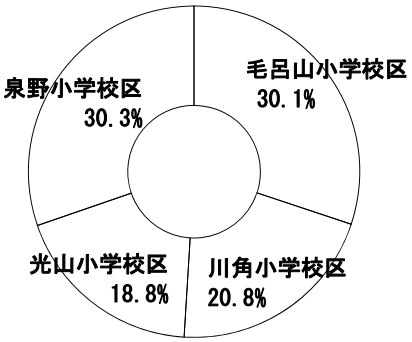
合計	2,006人	1,406人	70.1%

※小中学校それぞれにお子さんが在籍している場合には、小中学校それぞれに
　１人づつカウントしています。

【設問１】

あなたのお住まいは、どの小学校区ですか、番号を選んでください。

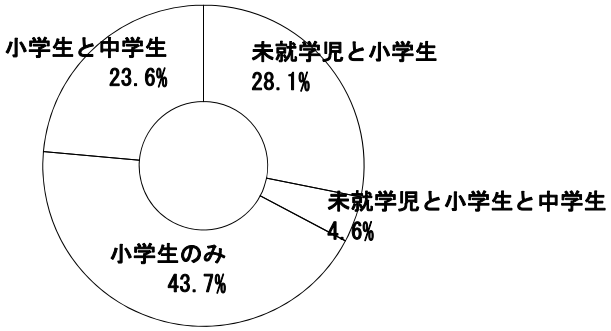
毛呂山小学校区	30.1%	光山小学校区	18.8%
川角小学校区	20.8%	泉野小学校区	30.3%



【設問２】

あなたのご家族について、あてはまるもの全ての番号を選んでください。

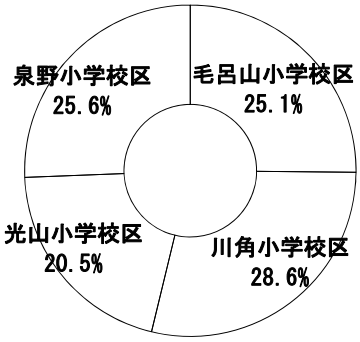
未就学児と小学生	28.1%	小学生のみ	43.7%
未就学児と小学生と中学生	4.6%	小学生と中学生	23.6%



【設問１】

あなたのお住まいは、どの小学校区ですか、番号を選んでください。

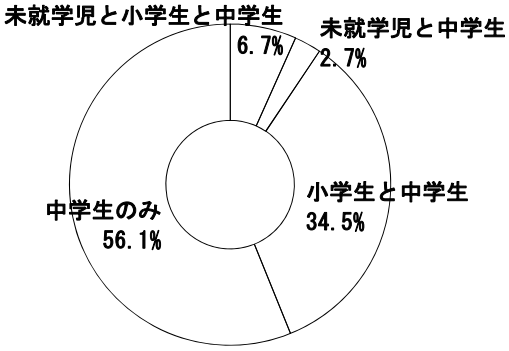
毛呂山小学校区	25.2%	光山小学校区	20.5%
川角小学校区	28.6%	泉野小学校区	25.7%



【設問２】

あなたのご家族について、あてはまるもの全ての番号を選んでください。

未就学児と小学生と中学生	6.7%	小学生と中学生	34.5%
未就学児と中学生	2.7%	中学生のみ	56.1%



【設問３】

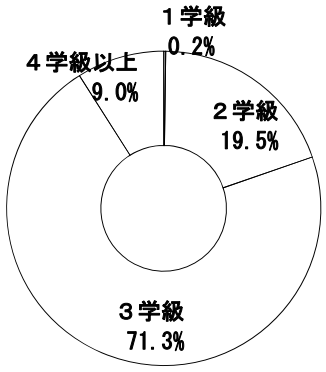
小学校、中学校で１学年あたりの学級数はどの程度がよいと思いますか。小中学校それぞれ一つ選んでください。

小学校

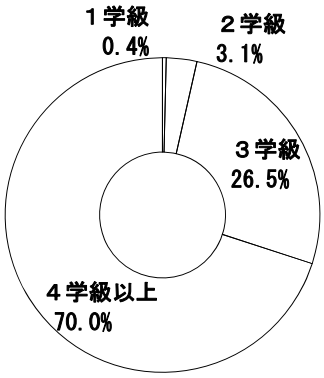
１学級	0.2%	３学級	71.3%
２学級	19.5%	４学級以上	9.0%

中学校

１学級	0.4%	３学級	26.5%
２学級	3.1%	４学級以上	70.0%



小学校

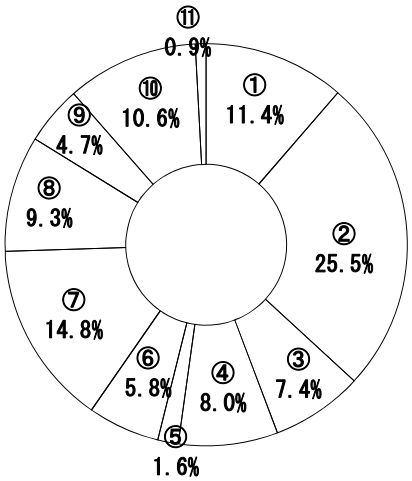


中学校

【設問4】

設問３で回答した理由として、あなたの考えに近いものはどれですか。三つまで選んでください。

①ゆとりある教育が受けられる	11.4%	⑦たくさんの友達ができ、幅広い人間関係づくりができる	14.8%
②児童･生徒一人ひとりに目が届きやすく、きめ細かな指導が行いやすい	25.5%	⑧社会性や協調性を身につける機会に恵まれる	9.3%
③児童生徒の活躍の場が多くなる	7.4%	⑨クラブ活動や選択教科の選択の幅が広がる	4.7%
④学級内の絆が強まる	8.0%	⑩運動会や発表会等において、活動の幅が広がる	10.6%
⑤学年を超えた友達ができやすい	1.6%	⑪その他	0.9%
⑥競争意識の高揚により運動や学習意欲が向上する	5.8%		



【設問３】

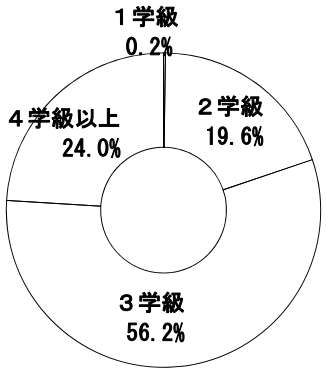
小学校、中学校で１学年あたりの学級数はどの程度がよいと思いますか。小中学校それぞれ一つ選んでください。

小学校

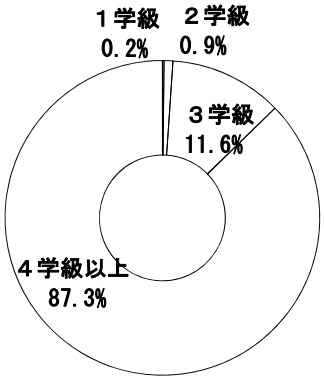
１学級	0.2%	３学級	56.2%
２学級	19.6%	４学級以上	24.0%

中学校

１学級	0.2%	３学級	11.6%
２学級	0.9%	４学級以上	87.3%



小学校

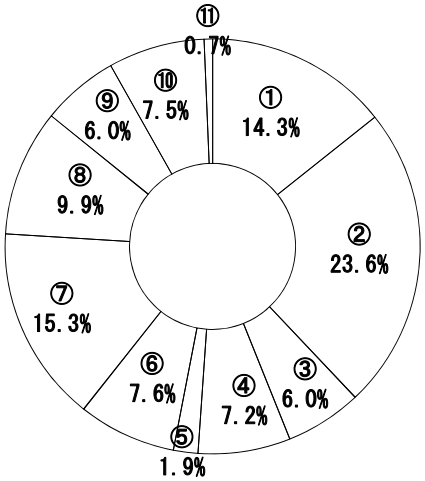


中学校

【設問４】

設問３で回答した理由として、あなたの考えに近いものはどれですか。三つまで選んでください。

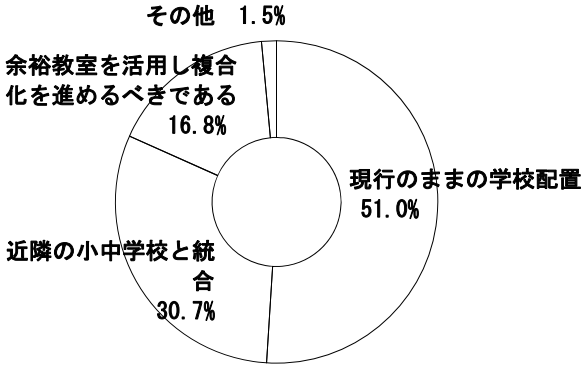
①ゆとりある教育が受けられる	14.3%	⑦たくさんの友達ができ、幅広い人間関係づくりができる	15.3%
②児童･生徒一人ひとりに目が届きやすく、きめ細かな指導が行いやすい	23.6%	⑧社会性や協調性を身につける機会に恵まれる	9.9%
③児童生徒の活躍の場が多くなる	6.0%	⑨クラブ活動や選択教科の選択の幅が広がる	6.0%
④学級内の絆が強まる	7.2%	⑩運動会や発表会等において、活動の幅が広がる	7.5%
⑤学年を超えた友達ができやすい	1.9%	⑪その他	0.7%
⑥競争意識の高揚により運動や学習意欲が向上する	7.6%		



【設問５】

現状及び今後の見込みからも児童生徒数が減少し、学校の小規模化が進むことが予想されます。町立小中学校への今後の対応であなたの考えに一番近いものはどれですか。一つ選んでください。

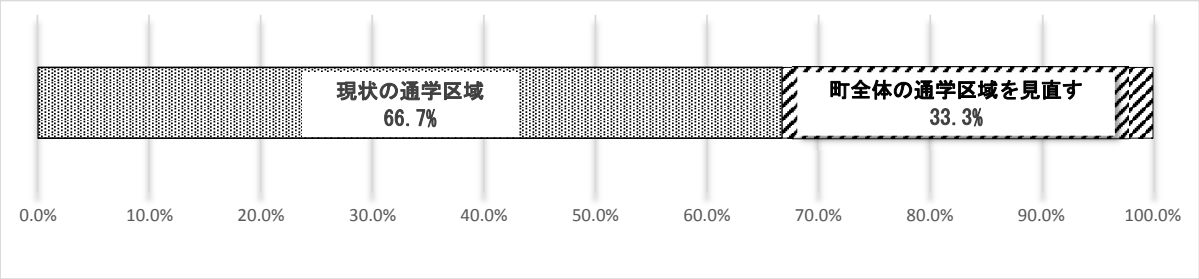
現行のままの学校配置が良い	51.0%	その他	1.5%
児童数の減少が著しい小中学校については近隣の小中学校と統合すべきである	30.7%		
児童数の減少が著しい小学校については、余裕教室を活用し複合化を進めるべきである	16.8%		



【設問６】　設問５で①と回答した方のみ回答してください

通学区域についてあなたの考えに一番近いものはどちらですか。

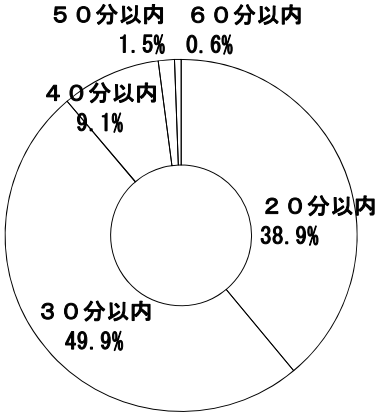
現状の通学区域	66.7%	町全体の通学区域を見直す	33.3%



【設問７】設問５で②と回答した方のみ回答してください

あなたが一番理想と思う小学校の通学時間は徒歩何分以内と思いますか。下記から一つ選んでください。

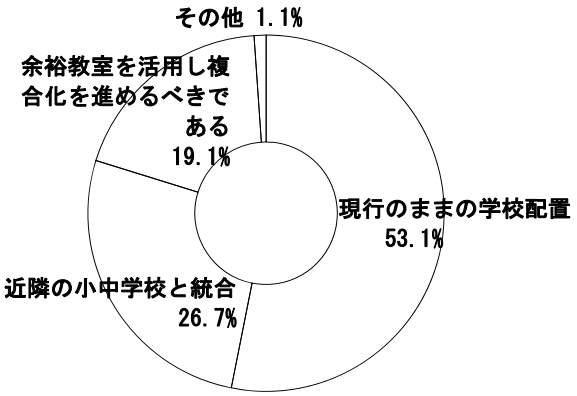
通学時間が概ね２０分以内	38.9%	通学時間が概ね５０分以内	1.5%
通学時間が概ね３０分以内	49.9%	通学時間が概ね６０分以内	0.6%
通学時間が概ね４０分以内	9.1%		



【設問５】

現状及び今後の見込みからも児童生徒数が減少し、学校の小規模化が進むことが予想されます。町立小中学校への今後の対応であなたの考えに一番近いものはどれですか。一つ選んでください。

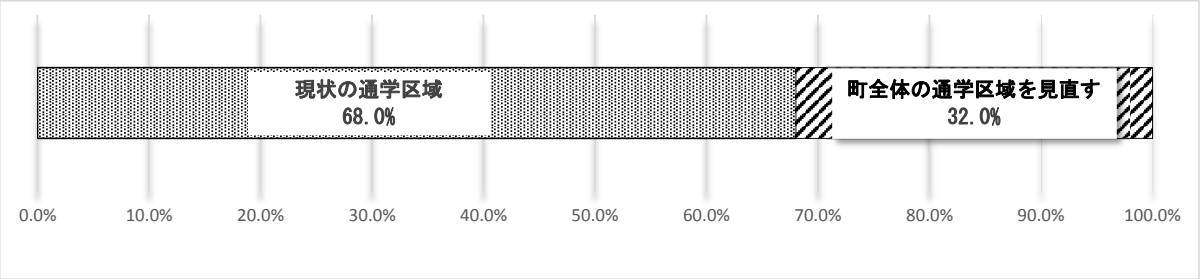
現行のままの学校配置が良い	53.1%	その他	1.1%
児童数の減少が著しい小中学校については近隣の小中学校と統合すべきである	26.7%		
児童数の減少が著しい小学校については、余裕教室を活用し複合化を進めるべきである	19.1%		



【設問６】　設問５で①と回答した方のみ回答してください

通学区域についてあなたの考えに一番近いものはどちらですか。

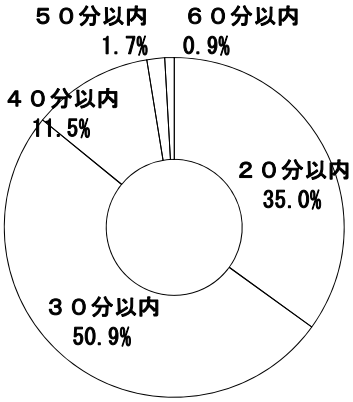
現状の通学区域	68.0%	町全体の通学区域を見直す	32.0%



【設問７】設問５で②と回答した方のみ回答してください

あなたが一番理想と思う小学校の通学時間は徒歩何分以内と思いますか。下記から一つ選んでください。

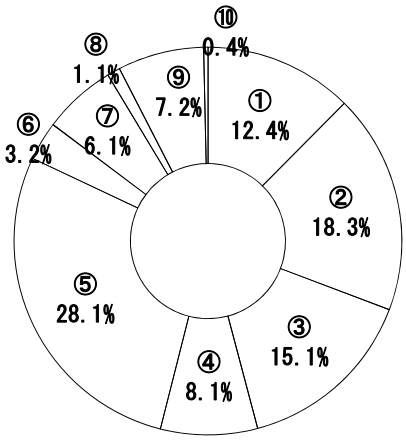
通学時間が概ね２０分以内	35.0%	通学時間が概ね５０分以内	1.7%
通学時間が概ね３０分以内	50.9%	通学時間が概ね６０分以内	0.9%
通学時間が概ね４０分以内	11.5%		



【設問８】設問５で②と回答した方のみ回答してください

小中学校の統合等を進める場合に、どのようなものが重要と思いますか。あなたの考えに一番近いものを二つ選んでください。

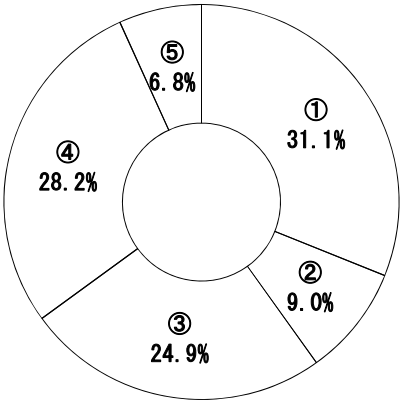
①学校施設の整備状況	12.4%	⑥地域とのつながり	3.2%
②近隣の小学校同士で統合する	18.3%	⑦廃校とされる学校の跡地利用	6.1%
③近隣の中学校と統合し小中一貫教育（義務教育学校）を進める	15.1%	⑧学校の歴史	1.1%
④学校の配置や位置	8.1%	⑨教育内容	7.2%
⑤児童の通学手段	28.1%	⑩その他	0.4%



【設問９】設問５で③と回答した方のみ回答してください

小学校の複合化を検討する場合に、あなたの考えに一番近いものを一つ選んでください。

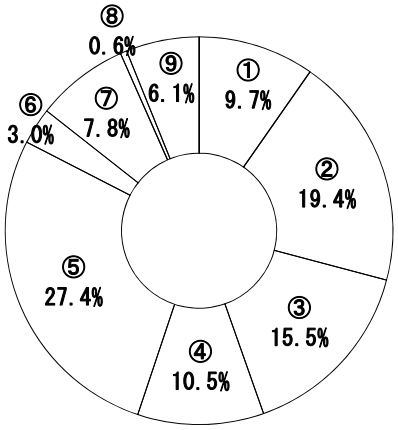
①高齢者支援機能との複合化	31.1%	④社会教育機能を入れる	28.2%
②民間への貸出ができる機能を入れる	9.0%	⑤その他	6.8%
③地域の活性化を図れる機能を入れる	24.9%		



【設問８】設問５で②と回答した方のみ回答してください

小中学校の統合等を進める場合に、どのようなものが重要と思いますか。あなたの考えに一番近いものを二つ選んでください。

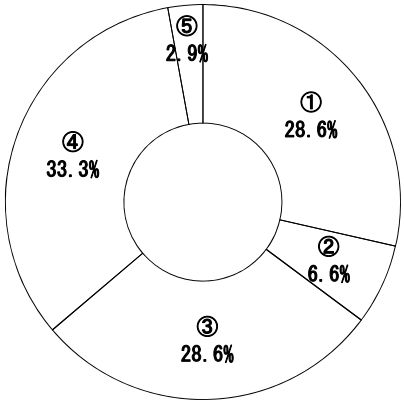
①学校施設の整備状況	9.7%	⑥地域とのつながり	3.0%
②近隣の小学校同士で統合する	19.4%	⑦廃校とされる学校の跡地利用	7.8%
③近隣の中学校と統合し小中一貫教育（義務教育学校）を進める	15.5%	⑧学校の歴史	0.6%
④学校の配置や位置	10.5%	⑨教育内容	6.1%
⑤児童の通学手段	27.4%	⑩その他	0.0%



【設問９】設問５で③と回答した方のみ回答してください

小学校の複合化を検討する場合に、あなたの考えに一番近いものを一つ選んでください。

①高齢者支援機能との複合化	28.6%	④社会教育機能を入れる	33.3%
②民間への貸出ができる機能を入れる	6.6%	⑤その他	2.9%
③地域の活性化を図れる機能を入れる	28.6%		



未来を拓く人づくり

毛呂山町の小中一貫教育

学校教育の基本理念
地域をつなぎ「いのち」輝く日本一の学校づくり

学びがつながります

○学力・体力向上を図る
　連続性のある学習活動
○「いのちの教育」を通した
　生きる力の育成

人と人がつながります

○児童生徒・教職員・地域との
　交流活動が充実

毛呂山町では、令和３年度より、各中学校区の特性を活かしながら、町内全小・中学校で小中一貫教育を実施します。
学習指導要領を基本として、義務教育９年間を一体のものとしてとらえ、連続性・発展性をもって子供たちの育成にあたります。

＜毛呂山町の小中一貫教育とは＞
中学校区の小・中学校で共通の目標（目指す児童生徒像）設定し、指導内容及び指導方法が義務教育９年間を貫いて設定され、実施される教育です。

令和２年１２月発行
毛呂山町教育委員会

毛呂山町公式HP

＜主なねらい＞
小・中学校９年間の見通しをもって、連続性のある教育課程を編成し、「いのちの教育」を通して子どもの「生きる力」を育成する。

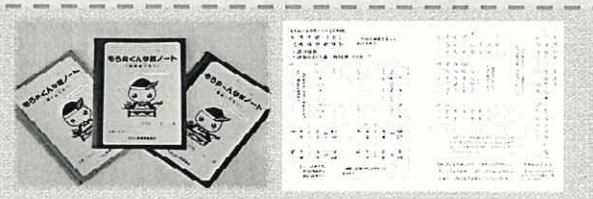
めざす子ども像　夢をもち 世界にはばたく 毛呂山の子ども

学びがつながります　◆学力・体力向上を図る連続性のある学習活動

☑学び方のつながり

授業の進め方、家庭学習への取り組み方のスタンダード化により、小・中学校の学び方がつながります。

〔学力向上 授業の心得 小・中版〕

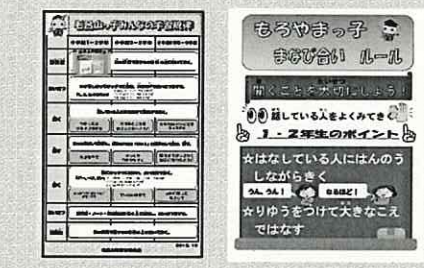


〔もろ丸くん学習ノート〕

☑学習指導法のつながり

〔学力向上毛呂山プラン〕

☑学習規律のつながり



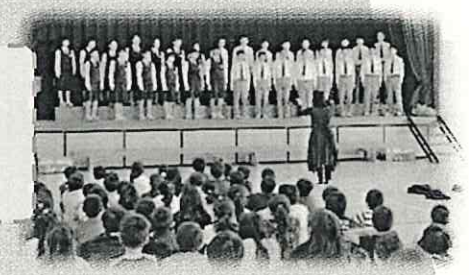
〔毛呂山っ子みんなの学習規律など〕

小・中学校の教職員が指導方法の統一化を図り、学力向上の取組がつながります。

人と人がつながります　◆児童生徒・教職員・地域との交流活動が充実

☑小学校児童・中学校生徒の交流

授業や学校行事を合同で行うことにより、児童と生徒の心がつながります。



☑地域との交流

地域の方々が、ゲストティーチャーとして授業に参加し、かけがえのない時間となります。

☑小・中学校教職員の交流

小・中学校の教職員が合同研修会を行い、互いのよさを学び、指導力の向上を図ります。

「いのちの教育」を実施します　◆生きる力の育成に向け、9年間を見通した学習活動を展開

令和元年度の活動を参考に作成

	１年生	２年生	３年生	４年生	５年生	６年生	中１	中２	中３
教科・領域等	国語 ・動物の赤ちゃん 道徳 ・命があってよかった	生活 ・野菜を育てよう 道徳 ・たんじょう日	国語 ・ちいちゃんのかげおくり 理科 ・動物のからだのつくり	理科 ・生き物の１年間 保健体育 ・育ちゆく体とわたし	社会 ・食糧生産 保健体育 ・事故やけがの防止 総合的な学習の時間 ・米作り	道徳 ・かけがえのない命 保健体育 ・病気の起こり方 ・がん教育	保健体育 ・生命の誕生 総合的な学習の時間 ・いのちの授業	理科 ・生物のからだのつくりとはたらき 保健体育 ・傷害の防止 ・応急手当、救命措置	理科 ・生命の連続性 保健体育 ・健康と環境 総合的な学習の時間 ・保育実習 ・赤ちゃん抱っこ、妊婦体験 ・福祉体験
目標	◎自分が愛されていることを自覚し、自分の命を大切にする。 ◎友達と協力して生活し、自他の生命を大切にする。				◎自己有用感を高め、自他の生命を大切にする。				◎自他の存在を認め合い、共によりよく生きようとする。
行事・その他	避難訓練〔火災・地震・自然災害・不審者対応〕／中学校区小中学校合同一斉下校／災害時保護者引き渡し訓練／消防署との連携〔煙体験・消火器体験・AED実習〕／警察署との連携〔交通安全教室〕				小中学校音楽交流会／部活動体験				

がん教育
がんの予防、早期発見・検診等について関心をもち、がんに対する正しい知識と、がんと向き合う人への正しい認識を身に付けることを目標に主体的に学習をします。教職員研修では、埼玉医科大学と連携を行っています。

赤ちゃんとのふれあい授業
学校にお母さんと赤ちゃんを招き、抱っこや妊婦疑似体験をします。生徒は自分自身の成長に気付いたり、感謝の気持ちをもち、これからの生き方を考えたりします。

義務教育9年間のとらえ方

夢をもち世界にはばたく　毛呂山の子ども

中2～中3でつけたい力

小5～中1でつけたい力

小1～小4でつけたい力

- 子供たちの発達段階を考慮し、各中学校区の実態に応じて『4・3・2』の区分（一例）による教育活動を実践します。
- 小・中学校9年間の見通しをもち、連続性のある教育課程を編成し、「いのちの教育」を通して子どもの「生きる力」を育成します。
- 全町で取り組む内容と、各中学校区の特性を活かした内容を合わせ、教育課程を編成・実施します。

幼稚園 保育園	教育課程	小学校課程6年						中学校課程3年		
	指導区分	基礎・基本【4年】				習熟・接続【3年】			充実・発展【2年】	
年長	学年	小1	小2	小3	小4	小5	小6	中1	中2	中3
○毛呂山町幼保小接続期プログラム ○埼玉県 子育ての目安「三つのめばえ」 「生活」「他者との関係」「興味・関心」	指導体制	学級担任制				一部教科担任制		教科担任制		
	指導のめあて	学習指導、生活習慣の基礎・基本の徹底				小・中の円滑な接続と学習の習熟・定着			義務教育の仕上げ・進路指導の充実	
	指導内容	○基礎・基本の習得 ○学習規律の確立 ○生活習慣の確立 ○集団生活のルール など				○基礎・基本の定着 ○学び方の習得 ○よりよい生活習慣の確立 ○規範意識の醸成 など			○基礎・基本の活用 ○自主的な学習習慣の獲得 ○自治的能力の醸成 ○社会生活への適応	

小中一貫教育 Q&A

Q.小中一貫した教育の成果として期待できるものは何ですか？

A.①小学校では、中学校教員による、より専門性を活かした授業や高学年の教科担任制、中学校では、生徒たちの様子をよく知る小学校教員とのTT（チームティーチング）授業など、多様な学習形態が可能になり、児童生徒の学習意欲を高め学力の向上を図ることができます。

②小・中学校の教員が協働して、9年間を見通した連続性のある指導を行うことにより、児童生徒への不安感を軽減することができるとともに、家庭と連携した生徒指導上の諸問題への継続的な対応が可能になります。

③小学校と中学校の教員が互いの指導方法のよさを学び合うことで、授業改善が図られます。

Q.小中一貫教育とコミュニティ・スクールの関連は？

A.「小中一貫教育」は、小・中学校の教職員が共通の目標を共有し、義務教育9年間を貫いて編成する教育内容や指導方法によって実現する教育をするための方策のことです。

「コミュニティ・スクール」は、教育委員会から任命された保護者や地域の方々（学校運営協議会）が、学校の運営方針を承認したり、学校を支援する活動のため学校と地域とをつなぐパートナーとなったりする「学校と地域を結ぶ仕組み」のことです。どちらも、中学校区を単位として、小・中学校がネットワークを作り、児童生徒に多様な人との関わりをもたせ成長させたいとの共通の願いがあります。こうした意味からも小中一貫教育とコミュニティ・スクールとを一体的に推進することで大きな成果があがります。

学びをつなぎ　人と人をつなぐ

未来を拓く人づくり

毛呂山町の小中一貫教育

＜学校教育の基本理念＞

地域をつなぎ「いのち」輝く日本一の学校づくり

毛呂山町では、各中学校区の特性を活かしながら、町内全小・中学校で小中一貫教育を実施しています。

学習指導要領を基本として、義務教育９年間を一体のものとしてとらえ、連続性・発展性をもって子供たちの育成にあたっています。

＜毛呂山町の小中一貫教育とは＞

中学校区の小・中学校で共通の目標を設定し、指導内容及び指導方法が義務教育９年間を貫いて設定され、実施される教育です。

令和４年３月発行

毛呂山町教育委員会

毛呂山町公式 HP

めざす子ども像　「夢をもち　世界にはばたく　毛呂山の子ども」

小・中学校９年間の見通しをもった、連続性のある教育課程を編成し、
「いのちの教育」をとおして、子どもの「生きる力」を育成することを目指しています。

毛呂山町の小・中学校では、毛呂山中学校区、川角中学校区の特性を活かして、様々な教育活動が行われています。多くの人と関わりながら勉強すると、学べることがたくさんあります。

学びのつながり

○年間を通じ、中学校教員が小学校へ乗り入れ授業を行っています。

乗り入れ授業［英語］

乗り入れ授業［音楽］

中学校教員の専門性を活かした、充実した授業が展開されています。
小学生にとっては、中学校の先生の授業を受ける貴重な時間となっています！

○中学校区の教職員による合同研修会を実施しています。

学習・生活・「いのちの教育」における目標を話合い、９年間を見通した指導方法の確認をしています。
小学校で学んだことが、中学校でも引き続き活かされます！

小中一貫合同研修会

○各種研修会は、小・中学校の担当者合同にて行い、９年間を見通した取組みを検討しています。

学力向上対策委員会

ICT 研修

「毛呂山（小中一貫）みんなの学習規律」「学力向上授業の心得」などを作成しています。
小・中学校教員の指導方法が統一化されています！

人と人のつながり

○小学生と中学生による学びの機会が増えています。

合同クラブ活動

小学生と中学生が一緒に学習をすることで、多様な経験を積むことができています。
小学生は先輩の姿を目標に、中学生は後輩への思いやりの気持ちを大切に学んでいます！

もろっ子橋開通

○保護者や地域の方々と一緒に学ぶ機会が増えています。

いのちの教育（手話）［手の絆］

リースづくり［折々の会］

社会科［歴史民俗資料館］

地域の方々がゲストティーチャーとして授業に参加し、豊富な知識や経験を活かした学習が行われています。
コミュニティ・スクールに支えられ、学校の教育活動がますます充実しています！

毛呂山町小中一貫教育　義務教育９年間　のとらえ方

幼稚園 保育園	学級担任制				一部教科担任制		教科担任制	教科担任制		夢をもち 世界にはばたく 毛呂山の子ども
	１年生	２年生	３年生	４年生	５年生	６年生	中１	中２	中３	
	基礎　・　基本				習熟　・　接続			充実・発展		自己実現へ
幼児教育	小学校課程　６年間						中学校課程　３年間			進路

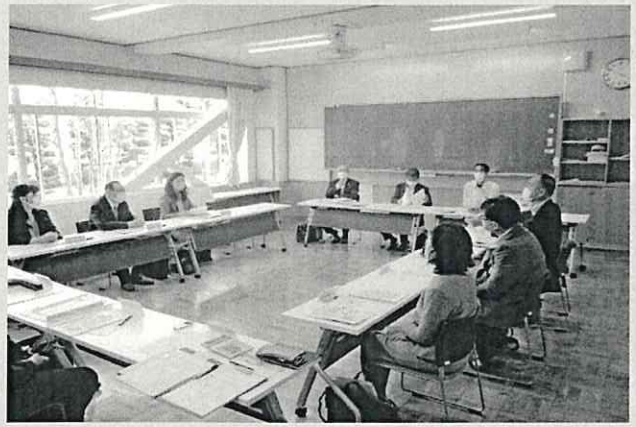
毛呂山町の**小中一貫教育**は、**コミュニティ・スクール**に支えられています！

- 「コミュニティ・スクール」は、教育委員会から任命された保護者や地域の方々（学校運営協議会）が、学校の運営方針を承認したり、学校を支援する活動のため学校と地域とをつなぐパートナーとなったりする「学校と地域を結ぶ仕組み」のことです。
- 中学校区を単位として、小・中学校が多様な人とのつながりを作ることで、学校だけではできない貴重な学習体験など、学びの機会を作っています。

学校運営協議会

毛呂山中学校区・川角中学校区それぞれに設置されています。

令和３年度は、小中一貫合同研修会と同日に開催しました。子供たちが元気に学ぶ姿や、小・中学校の先生方が一緒に研修を行う様子を参観し、教育活動に対する様々なご意見を頂きました。各学校では、頂いたご意見をもとに、日々の教育活動のさらなる充実を図っていきます。



毛呂山町の小中一貫教育 Q&A

Q.小中一貫教育の具体的な取組は何ですか？

A. １時間の授業の流れや学習規律について、小学校１年生から中学校３年生までを見据えて設定し、小・中学校の教職員が指導を行っています。

＜学力向上授業の心得　小学校版・中学校版＞

毛呂山っ子＜小中一貫＞みんなの学習規律

小学校

単学級　メリットとデメリット

（1）子どもの視点

メリット

・人数が少ないので、行事での活躍のチャンス（学芸会でセリフを言う機会が増えるなど）が多い。
・クラブ活動や委員会活動でリーダーになれるチャンスが多い。
・学年を超えた交流が多く、つながりが生まれやすい。
・顔や名前が一致しやすく、子ども同士のつながりが生まれやすい。

デメリット

・クラス替えがないので、人間関係で逃げ場がない。心機一転の機会が作れない。
・指導者が少なく、クラブ活動に制限がある。
・人数が少ないことで、多様な考え方に接する機会が限られてしまう。

（2）教員の視点

メリット

・学校生活や校外学習等の行事において、子ども達に目が届きやすく、引率もしやすい。きめ細やかな指導ができる。
・体育館を広く使えたり、空き教室を活用したりできるなど、施設を使いやすい。

デメリット

・運動会などの行事の準備が大変であり、本番の際も一人で何役もこなさなければならなくなる。
・会計対応、保護者会資料、校務文書の処理などの事務を少人数で行わなければならない。また、相談相手も少ない。
・若手とベテランなど、教員のバランス配置が難しい。
・有事の際の対応やパトロールなどに人手が足りない。

（3）保護者の視点

メリット

・行事で子どもの活躍するチャンスが増える。

デメリット
・全体の発注量が少ないので、卒業アルバム代等が高くなる。
・PTA の役員決めが容易ではない。同じ方が何回も引き受けなければならないケースも出てくる。

中学校
単学級　メリットとデメリット

（1）子どもの視点
メリット
・行事での活躍のチャンス（文化祭の劇でセリフを言う機会が増えるなど）が多い。
・顔や名前が一致しやすく、子ども同士のつながりが生まれやすい。

デメリット
・クラス替えによる人間関係の問題解消の機会が得られない。
・様々なタイプの人との交流ができなくて、多様な考え方に接する機会が少ない。

（2）教員の視点
メリット
・学校生活や校外学習などの行事において、子どもに目が届きやすい。
・文化施設等の利用において、人数の制限を受けづらい。活動の選択肢が広がる。

デメリット
・部活動に制限があり、選択肢が少ない。
・運動会や合唱などの行事が盛り上がらない。運動会は、大規模校のようにクラス同士の対抗心が生まれない。合唱は歌のバリエーションが少なくなり、多様性が生まれない。

小学校

複数学級　メリットとデメリット

（1）子どもの視点

メリット

・大人数の中で多様な考えに触れ、磨かれていく。
・学校全体に活気がある。

デメリット

・校外学習での活動の時間が減る。（集合写真などに時間がかかり、活動時間が削られてしまう。）
・学芸会等での一人ひとりの役割が少ない。

（2）教員の視点

メリット

・子どもたちを担任単位だけでなく、学年単位で見ることができる。
・行事等に対しての工夫やアイデアが様々出る。
・人材が多いので、ベテラン教員等からのフォローも手厚く、若手が育ちやすい。
・児童の人間関係を考慮してクラス配置を決めることができる。

デメリット

・空き教室やスペースの確保が難しい。
・教室数が限られることから時間割を作るにも容易ではない。予備の枠が取れない。
・人数と施設規模（体育館・校庭など）が合っていないため、活動に制限が生まれる。行事の順延による施設の確保が難しい。
・人材が多く、他の教員に助けてもらえる環境だが、反面、経験の機会が少なくなる。

中学校

複数学級　メリットとデメリット

（1）子どもの視点

メリット

・学校全体に活気がある。

・多様な集団形成ができる。

デメリット

・多様な集団形成ができる一方で、トラブルも多い。集団同士のぶつかり合いなども起こる。

・人数が多いことで、情緒に不安のある生徒は順応に時間がかかる。

（2）教員の視点

メリット

・人数が多いため、行事の準備等がしやすい。

・研修や OJT などの指導が手厚い。

デメリット

・教室が足りない。

・職員が職員室に入りきらない。

・修学旅行の宿が限定される。

小中一貫教育の導入状況調査について

1．調査の目的

小中一貫教育の制度化に係る改正学校教育法及び関係政省令・告示が平成28年4月に施行されたことから、「義務教育学校」及び「小中一貫型小学校・中学校」（「併設型小学校・中学校」及び「連携型小学校・中学校」）の導入状況及び導入予定等を把握する。

※　それぞれの制度については、2ページの（参考）を参照。

本調査における小中連携教育・小中一貫教育の定義

小中連携教育：小・中学校段階の教員が互いに情報交換や交流を行うことを通じて、小学校教育から中学校教育への円滑な接続を目指す様々な教育

小中一貫教育：小中連携教育のうち、小・中学校段階の教員が目指す子供像を共有し、9年間を通じた教育課程を編成し、系統的な教育を目指す教育

2．調査時点

平成29年3月1日

3．調査の対象

全都道府県、全市区町村（一部事務組合を含む）、附属学校を設置する全国立大学法人、小学校又は中学校を設置する全学校法人

（参考）小中一貫教育に関する制度の類型

		義務教育学校	小中一貫型小学校・中学校	
			中学校併設型小学校 小学校併設型中学校	中学校連携型小学校 小学校連携型中学校
設置者		―	同一の設置者	異なる設置者
修業年限		9年 （前期課程6年＋後期課程3年）	小学校6年、中学校3年	
組織・運営		一人の校長、一つの教職員組織	それぞれの学校に校長、教職員組織	
			小学校と中学校における教育を一貫して施すためにふさわしい運営の仕組みを整えることが要件 例）① 関係校を一体的にマネジメントする組織を設け、学校間の総合調整を担う校長を定め、必要な権限を教育委員会から委任する ② 学校運営協議会を関係校に合同で設置し、一体的な教育課程の編成に関する基本的な方針を承認する手続を明確にする ③ 一体的なマネジメントを可能とする観点から、小学校と中学校の管理職を含め全教職員を併任させる	中学校併設型小学校と小学校併設型中学校を参考に、適切な運営体制を整備すること
免許		原則小学校・中学校の両免許状を併有 ※ 当分の間は小学校免許状で前期課程、中学校免許状で後期課程の指導が可能	所属する学校の免許状を保有していること	
教育課程		・9年間の教育目標の設定 ・9年間の系統性・体系性に配慮がなされている教育課程の編成		
教育課程の特例	一貫教育に必要な独自教科の設定	○	○	○
	指導内容の入替え・移行	○	○	×
施設形態		施設一体型 ・ 施設隣接型 ・ 施設分離型		
設置基準		前期課程は小学校設置基準、後期課程は中学校設置基準を準用	小学校には小学校設置基準、中学校には中学校設置基準を適用	
標準規模		18学級以上27学級以下	小学校、中学校それぞれ12学級以上18学級以下	
通学距離		おおむね6km以内	小学校はおおむね4km以内、中学校はおおむね6km以内	
設置手続き		市町村の条例	市町村教育委員会の規則等	

目　次

Ⅰ　平成29年度における義務教育学校、小中一貫型小学校・中学校の設置状況（予定を含む）

・平成29年度における義務教育学校、小中一貫型小学校・中学校の設置数（予定を含む）【5】
・平成29年度新たに設置予定の義務教育学校 【6】
・平成29年度新たに設置予定の小中一貫型小学校・中学校（併設型） 【7】

Ⅱ　小中一貫教育の推進状況・推進方針

・市区町村における小中一貫教育、小中連携教育の実施状況【9】
・小中一貫教育を行っている市区町村における実施状況及び展開の予定【10】
・小中一貫教育を行っていない市区町村における検討状況【11】
・小中一貫教育実施予定の市区町村における導入の形態【12】

Ⅲ　義務教育学校の設置予定

・義務教育学校の年度別設置状況【14】
・義務教育学校における教育課程特例の導入状況【15】
・義務教育学校の学年段階の区切り【16】
・義務教育学校の施設形態【17】

Ⅳ　小中一貫型小学校・中学校（併設型・連携型）の設置予定

・併設型小学校・中学校の年度別設置状況 【19】
・併設型小学校・中学校における教育課程特例の導入状況【20】
・併設型小学校・中学校の学年段階の区切り【21】
・併設型小学校・中学校の教職員の兼務発令【22】
・併設型小学校・中学校の運営の仕組み【23】
・併設型小学校・中学校の施設形態【24】
・連携型小学校・中学校の年度別設置状況【25】

Ⅴ　都道府県調査

・都道府県による小中一貫教育の推進状況 【27】
・小・中学校教員免許状の併有促進のための工夫【28】
・小中一貫教育を推進するための人事上の工夫【29】

Ⅵ　小中一貫教育の成果と課題　～平成26年度調査との比較～

・小中一貫教育のこれまでの取組の総合的な評価（成果）【31】
・小中一貫教育の成果【32】～【35】
・小中一貫教育のこれまでの取組の総合的な評価（課題）【36】
・小中一貫教育の課題【37】【38】

Ⅰ　平成29年度における義務教育学校、小中一貫型小学校・中学校の設置状況（予定を含む）

平成29年度における義務教育学校、小中一貫型小学校・中学校の設置数（予定を含む）

※（　）内は平成28年度の設置数

		設置者数	設置数	施設形態
・義務教育学校 48校		2国立大学 （0国立大学）	2校 （0校）	施設一体型1校 施設隣接型1校
		23都道府県35市区町村 （13都道府県15市区町）	46校 （22校）	施設一体型40校 施設隣接型　5校 施設分離型　1校
・小中一貫型小学校・中学校				
	併設型 253件	1国立大学 （1国立大学）	1件 （1件）	施設隣接型1件
		37都道府県84市区町村 （27都府県55市区町村）	246件 （160件）	施設一体型63件 施設隣接型28件 施設分離型155件
		6学校法人 （4学校法人）	6件 （4件）	施設一体型3件 施設隣接型3件
	連携型	0	0件	

平成29年度新たに設置予定の義務教育学校

都道府県	学校名	小中一貫取組開始年度	施設	区切り	教育課程特例の実施予定
北海道	占冠村立トマム学校	平成29	一体型	6－3	予定なし
茨城県	笠間市立みなみ学園義務教育学校	平成29	分離型	5－4	検討中
栃木県	小山市立絹義務教育学校	平成22	一体型	4－3－2	予定なし
栃木県	那須塩原市立塩原小中学校	平成26	一体型	4－3－2	予定なし
千葉県	成田市立下総みどり学園	平成26	一体型	4－3－2	予定なし
神奈川県	横浜市立西金沢義務教育学校	平成22	一体型	6－3	各教科等の内容のうち相互に関連するものの入替え、中学校指導内容の小学校段階への前倒し移行
福井県	福井大学教育学部附属義務教育学校	平成29	一体型	6－3	各教科等の内容のうち相互に関連するものの入替え
長野県	大町市立美麻小中学校	平成28	一体型	4－3－2	予定なし
岐阜県	羽島市立桑原学園	平成20	一体型	6－3	予定なし
岐阜県	白川村立白川郷学園	平成23	一体型	4－3－2	小中一貫教科等の設定 中学校指導内容の小学校段階への前倒し移行
三重県	津市立みさとの丘学園	平成26	一体型	その他	小中一貫教科等の設定
京都府	亀岡市立亀岡川東学園	平成28	一体型	6－3	小中一貫教科等の設定
京都府	京都教育大学附属京都小中学校	平成15	隣接型	4－3－2	小中一貫教科等の設定、 中学校指導内容の小学校段階への前倒し移行
大阪府	和泉市立南松尾はつが野学園	平成27	一体型	6－3	予定なし
和歌山県	和歌山市立伏虎義務教育学校	平成29	一体型	4－3－2	予定なし
広島県	府中市立府中明郷学園	平成16	一体型	教科等の特性に合わせて区分を設定	小中一貫教科等の設定、 各教科等の内容のうち相互に関連するものの入替え
広島県	府中市立府中学園	平成16	一体型	教科等の特性に合わせて区分を設定	小中一貫教科等の設定、 各教科等の内容のうち相互に関連するものの入替え
福岡県	八女市立上陽北汭学園	平成21	一体型	4－3－2	検討中
佐賀県	多久市立東原庠舎中央校	平成25	一体型	4－3－2	検討中
佐賀県	多久市立東原庠舎東部校	平成25	一体型	4－3－2	検討中
佐賀県	多久市立東原庠舎西渓校	平成25	一体型	4－3－2	検討中
佐賀県	玄海町立玄海みらい学園	平成29	一体型	4－3－2	検討中
熊本県	高森町立高森東学園義務教育学校	平成24	隣接型	4－3－2	検討中
大分県	大分市立碩田学園	平成21	一体型	4－3－2	小中一貫教科等の設定
鹿児島県	南さつま市立坊津学園	平成22	一体型	4－3－2	小中一貫教科等の設定、 中学校指導内容の小学校段階への前倒し移行
鹿児島県	出水市立鶴荘学園	平成28	隣接型	6－3	小中一貫教科等の設定

平成29年度新たに設置予定の小中一貫型小学校・中学校（併設型）

■自治体別件数（公立）

	府県名	市町村数	件数
1	北海道	4	5
2	青森県	2	3
3	山形県	1	1
4	茨城県	2	16
5	栃木県	2	3
6	千葉県	2	2
7	神奈川県	1	4
8	新潟県	2	10
9	富山県	1	2
10	長野県	1	4
11	静岡県	2	4
12	三重県	1	2
13	京都府	1	1
14	大阪府	1	4
15	兵庫県	2	8
16	奈良県	1	1
17	鳥取県	1	1
18	広島県	1	2
19	山口県	2	4
20	愛媛県	1	1
21	福岡県	1	1
22	長崎県	1	3
23	大分県	1	1
24	宮崎県	1	1
25	鹿児島県	1	1
26	沖縄県	1	1
計	26道府県	37市町村	86件

■取組に含まれる小学校・中学校数（公立）

6	件数	小学校数	中学校数
1小1中	42	42	42
2小1中	23	46	23
3小1中	11	33	11
4小1中	6	24	6
5小1中	2	10	2
6小1中	2	12	2
計	86件	167校	86校

■施設形態の別（公立）

	件数
施設一体型	19
施設隣接型	9
施設分離型	58
計	86件

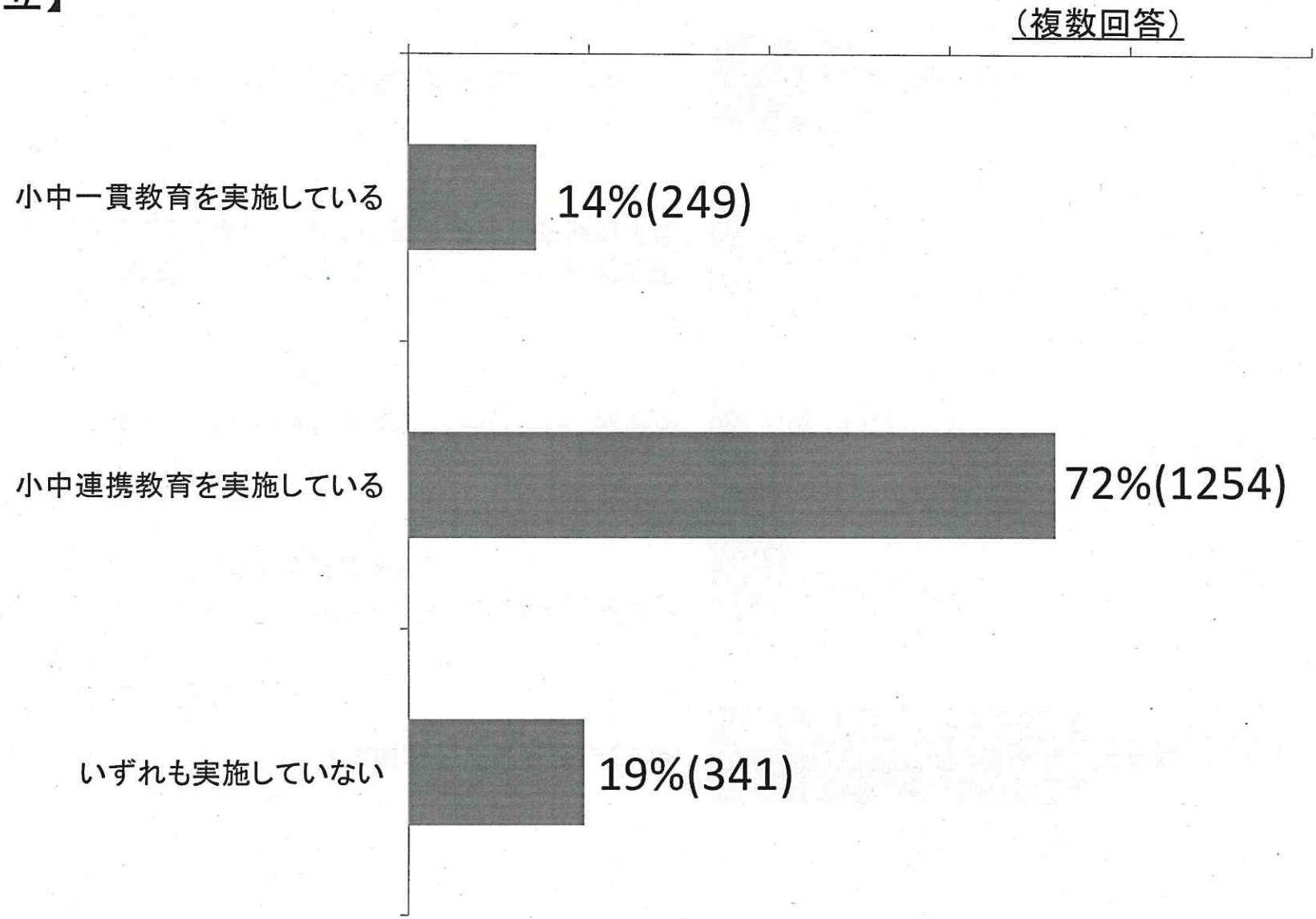
■私立学校における件数

	県名	学校法人数	予定件数	施設形態	取組に含まれる学校数
1	東京都	1	1	一体型	1小1中
2	長野県	1	1	一体型	1小1中

Ⅱ　小中一貫教育の推進状況・推進方針

市区町村における小中一貫教育、小中連携教育の実施状況

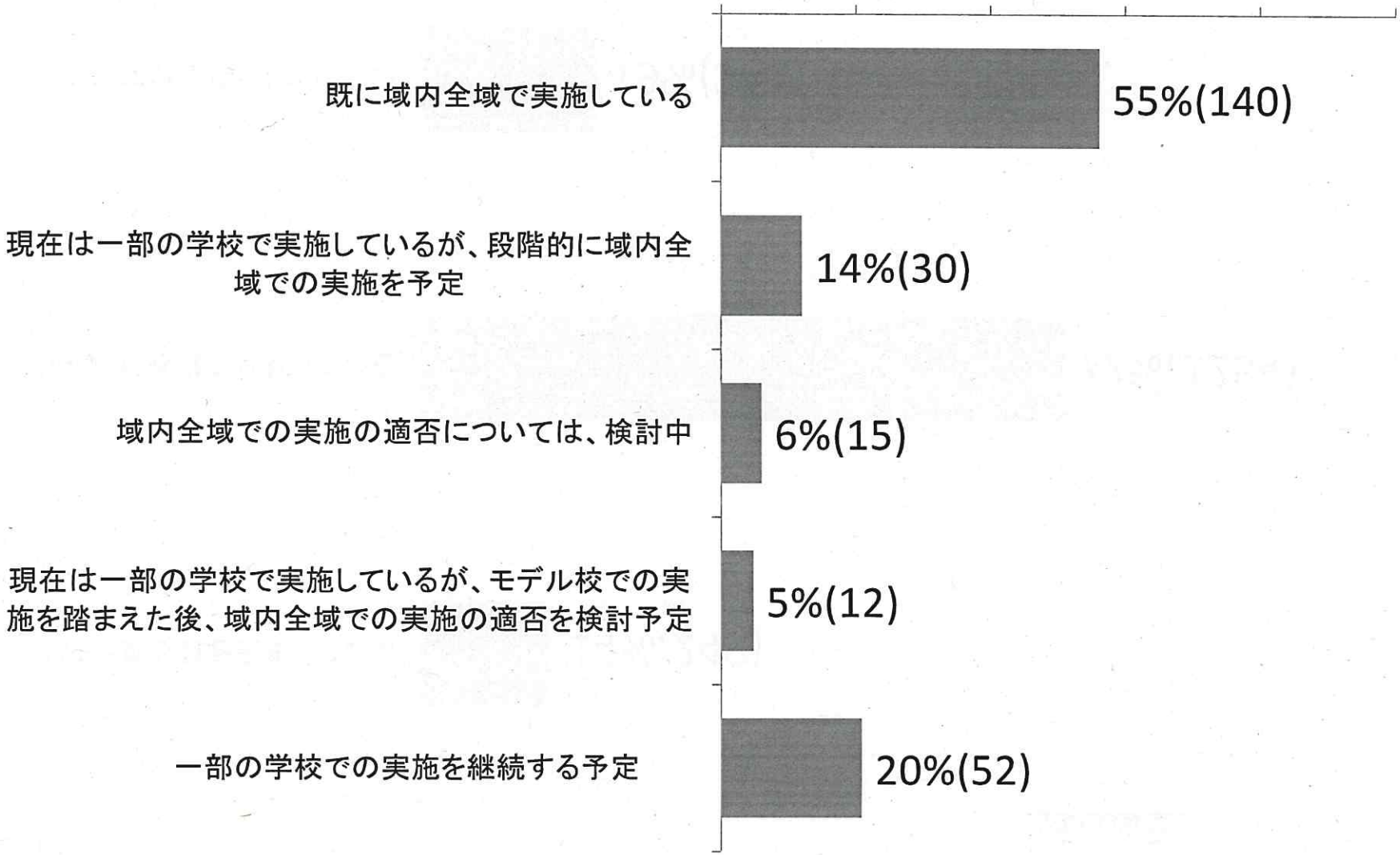
【公立】



回答：1749市区町村（一部事務組合を含む全市区町村）

小中一貫教育を行っている市区町村における実施状況及び展開の予定

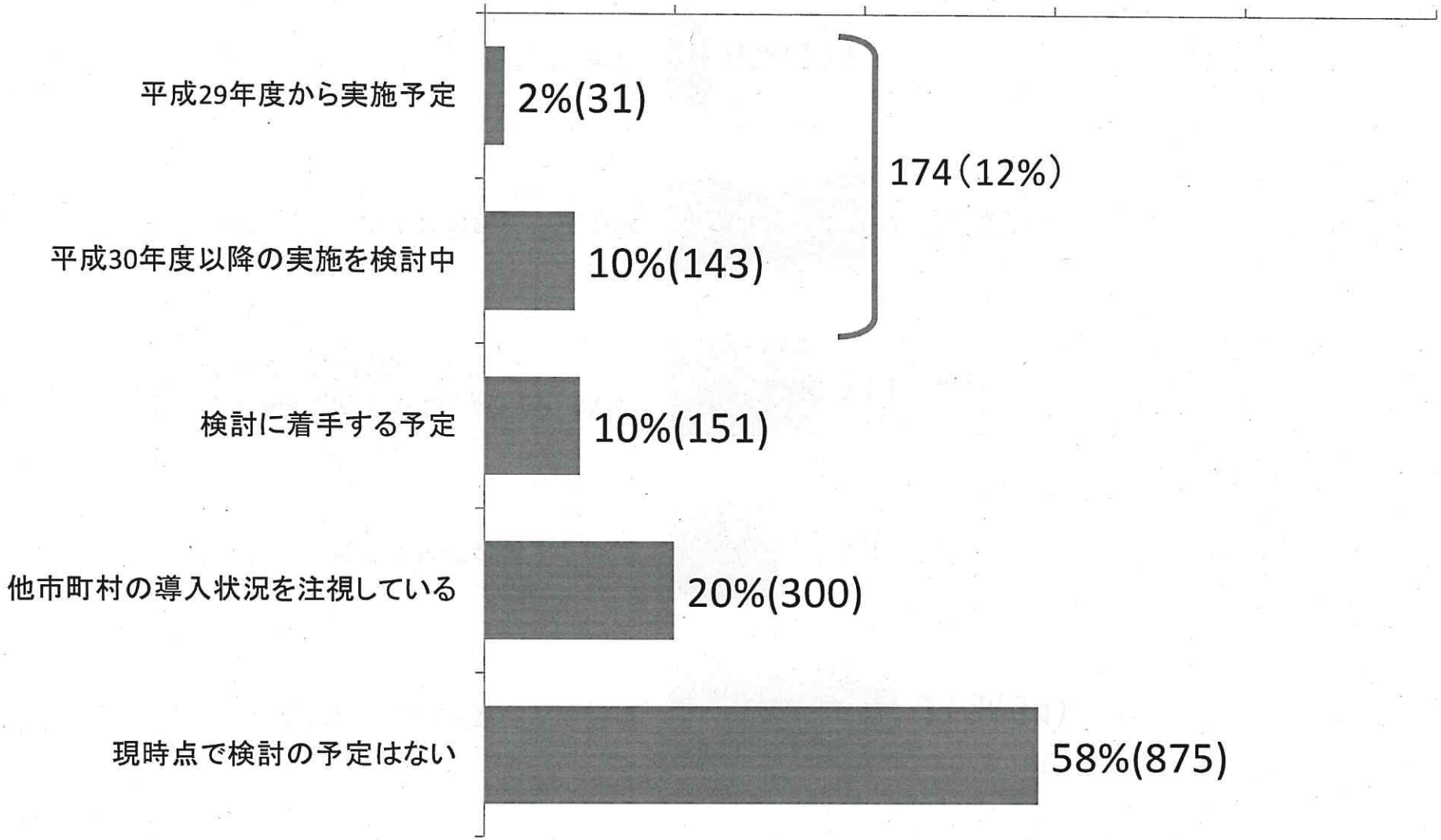
【公立】



回答：249市区町村（小中一貫教育を行っている市区町村）

小中一貫教育を行っていない市区町村における検討状況

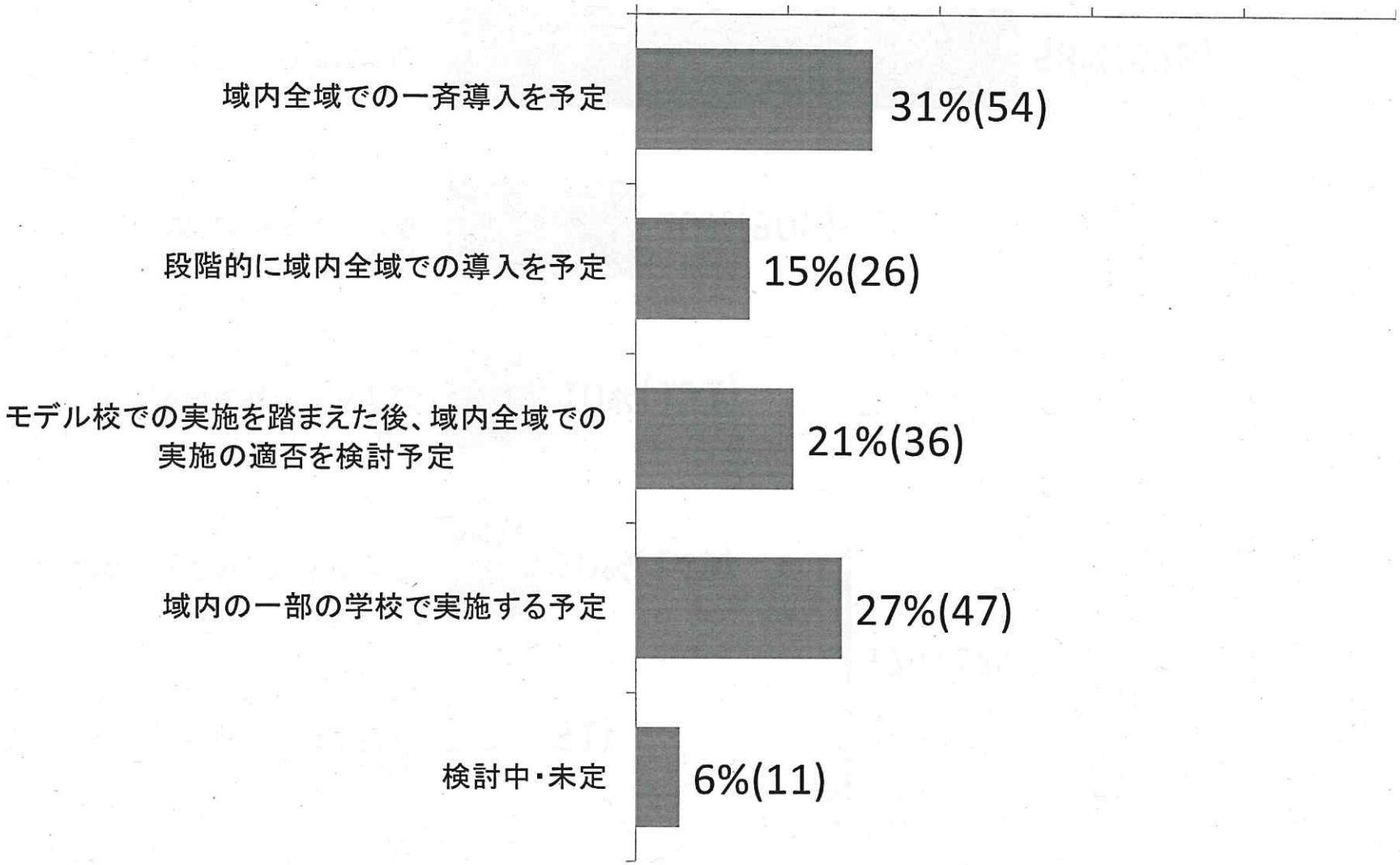
【公立】



回答：1500市区町村（小中一貫教育を行っていない市区町村）

小中一貫教育実施予定の市区町村における導入の形態

【公立】

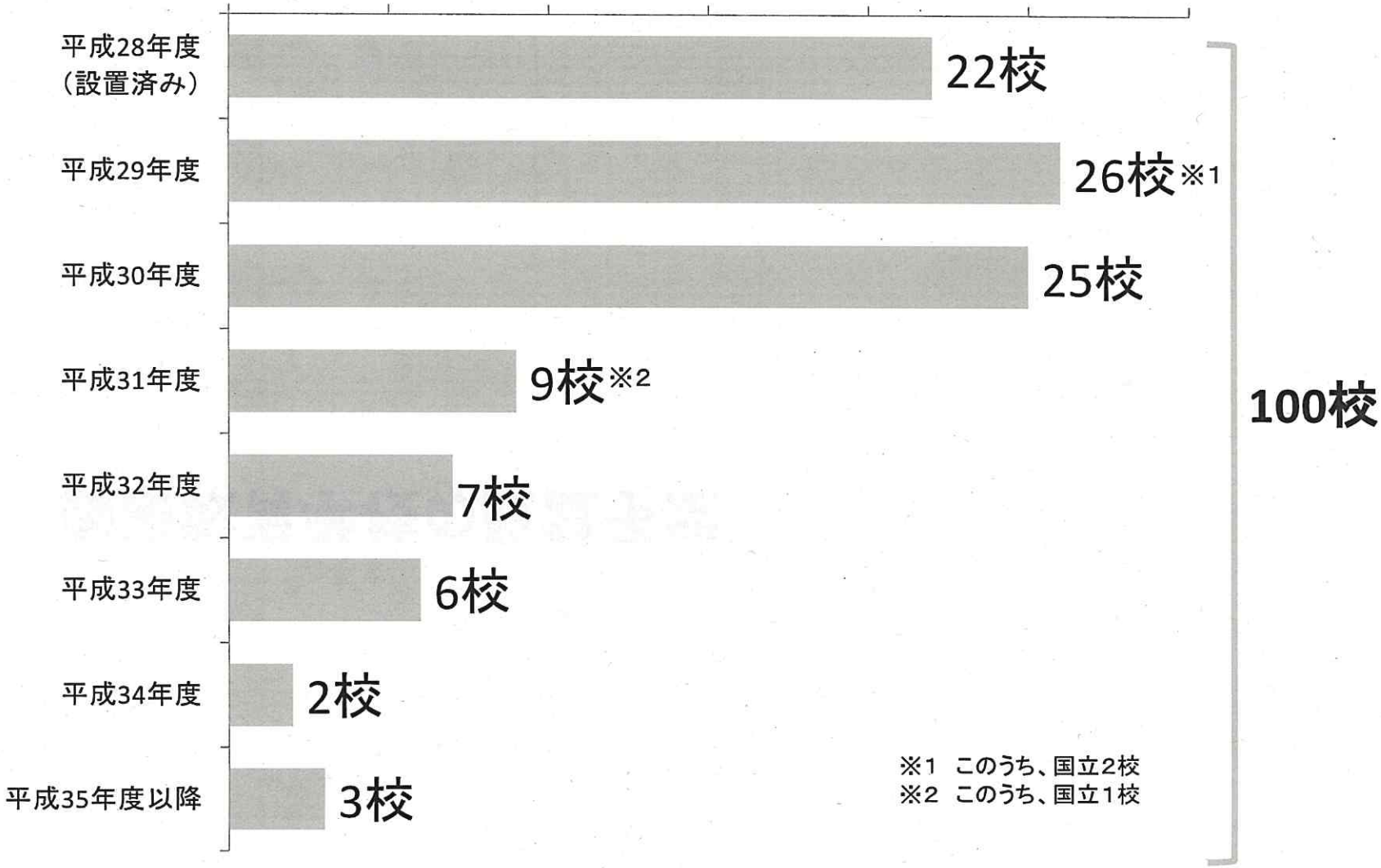


回答：174市区町村（平成29年度から小中一貫教育を実施予定及び平成30年度以降の実施を検討中の市区町村）

Ⅲ　義務教育学校の設置予定

義務教育学校の年度別設置状況

【国立・公立・私立】

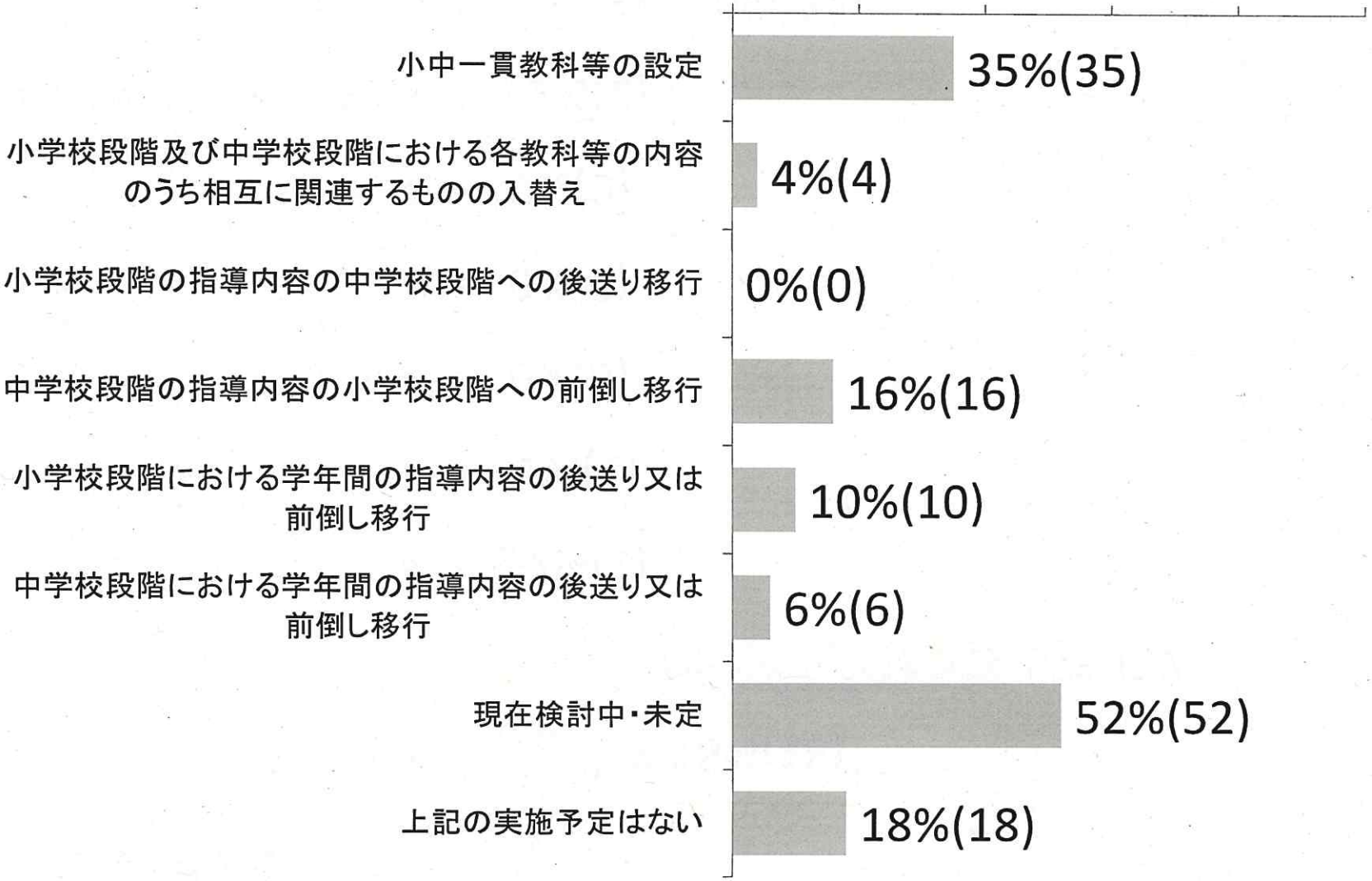


※予定を含む。

義務教育学校における教育課程特例の導入状況

【国立・公立・私立】

（複数回答）

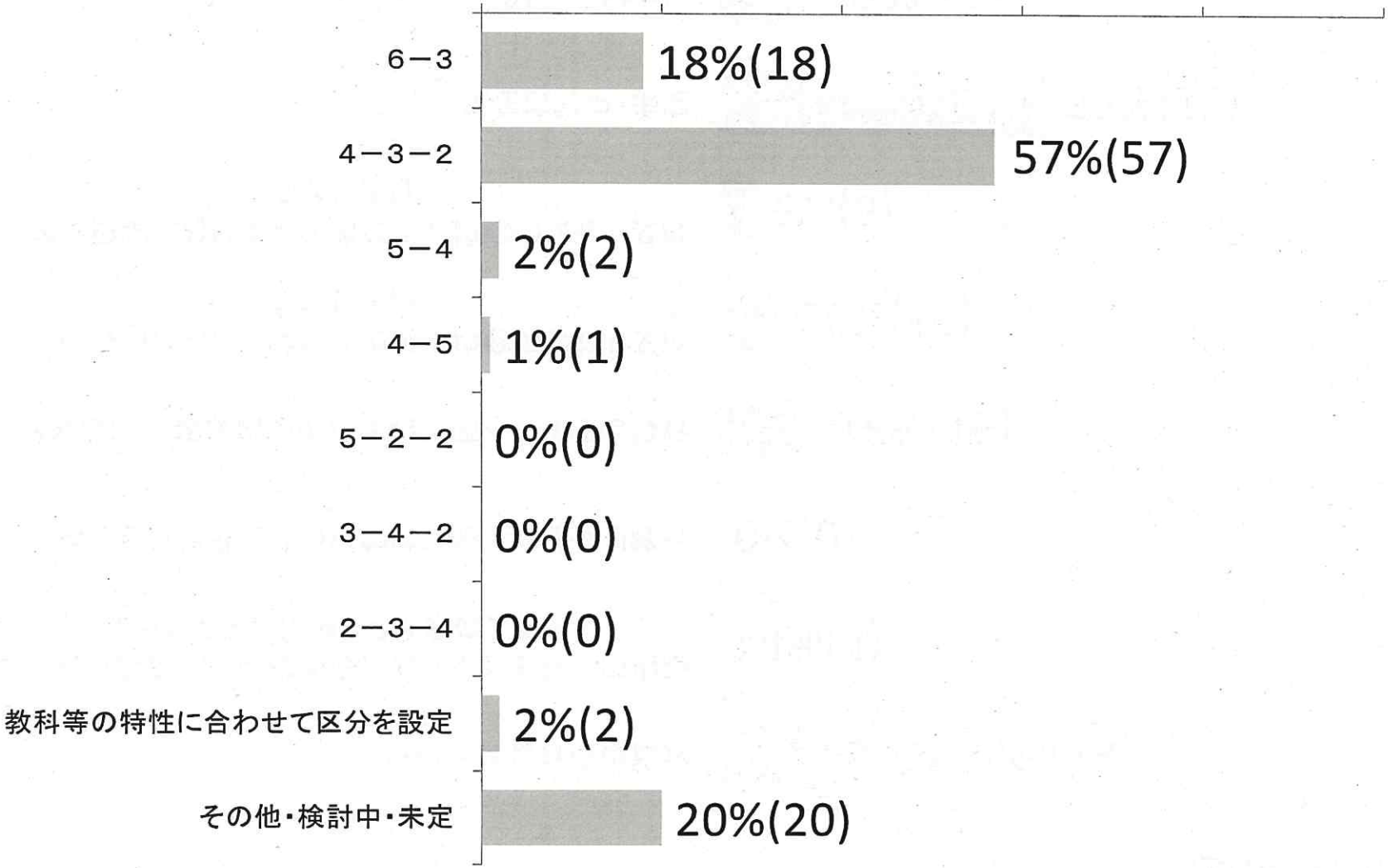


※予定を含む。

回答：100校（義務教育学校設置及び設置予定校数）

義務教育学校の学年段階の区切り

【国立・公立・私立】

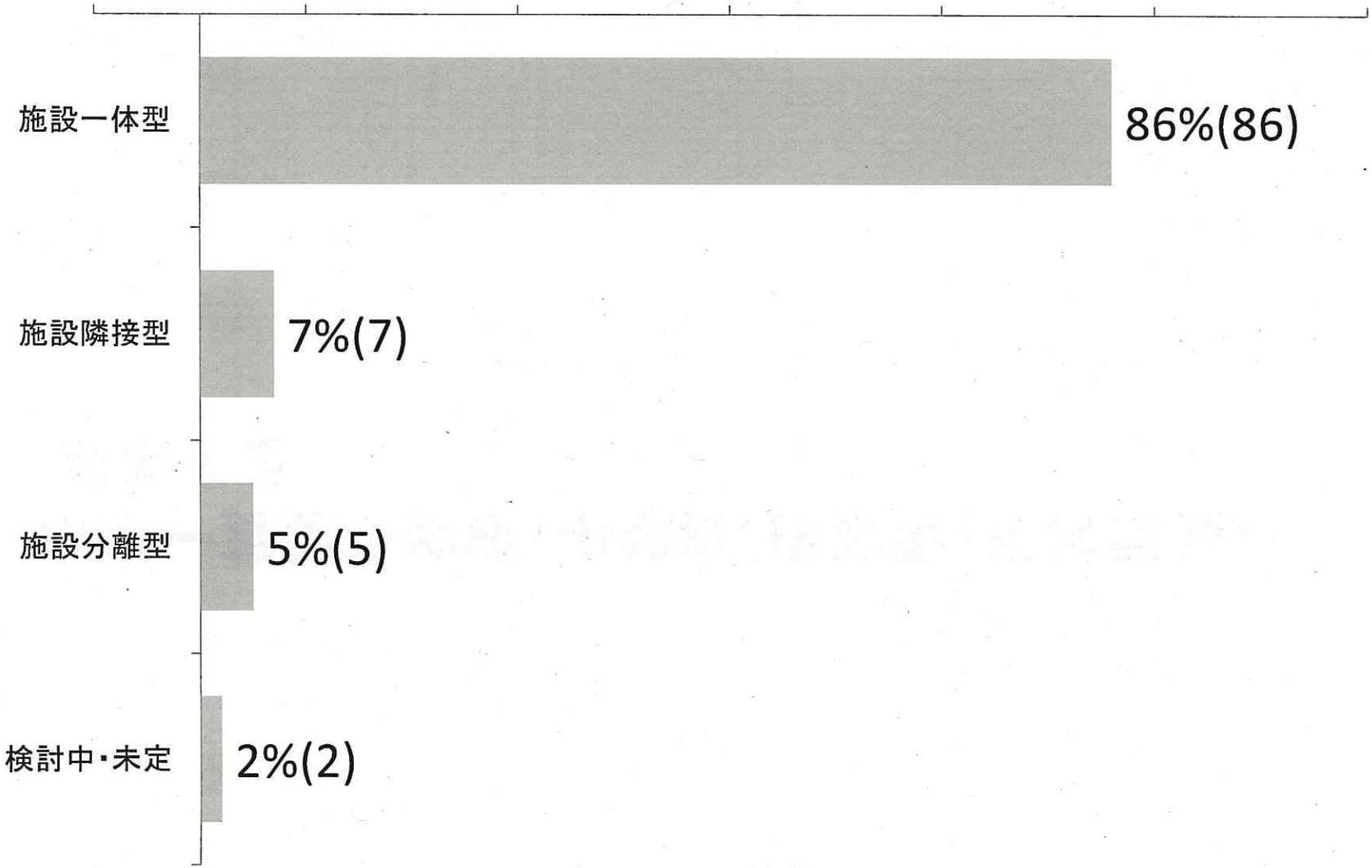


※予定を含む。

回答：100校（義務教育学校設置及び設置予定校数）

義務教育学校の施設形態

【国立・公立・私立】



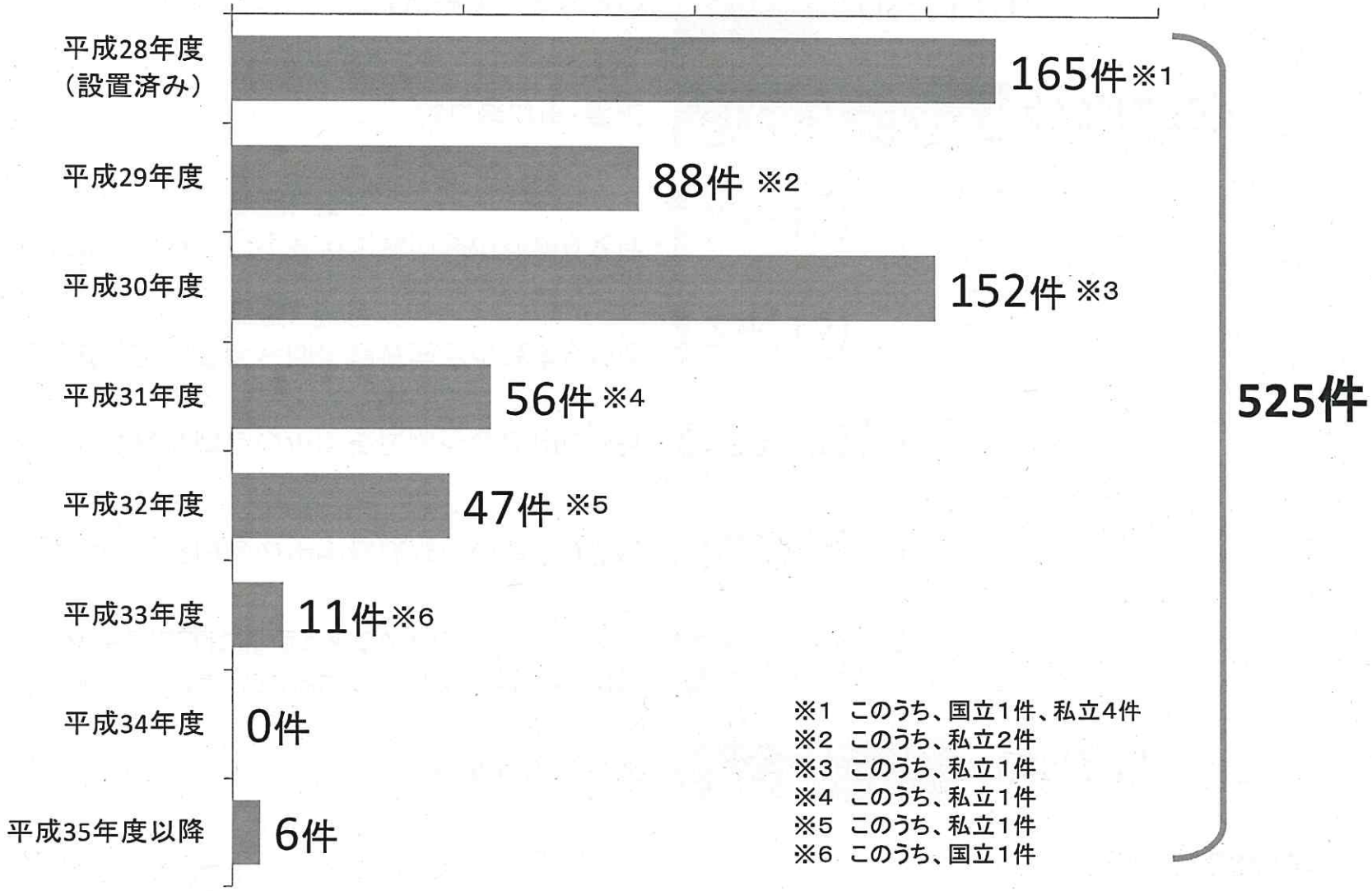
※予定を含む。

回答：100校（義務教育学校設置及び設置予定校数）

Ⅳ　小中一貫型小学校・中学校（併設型・連携型）の設置予定

併設型小学校・中学校の年度別設置状況

【国立・公立・私立】

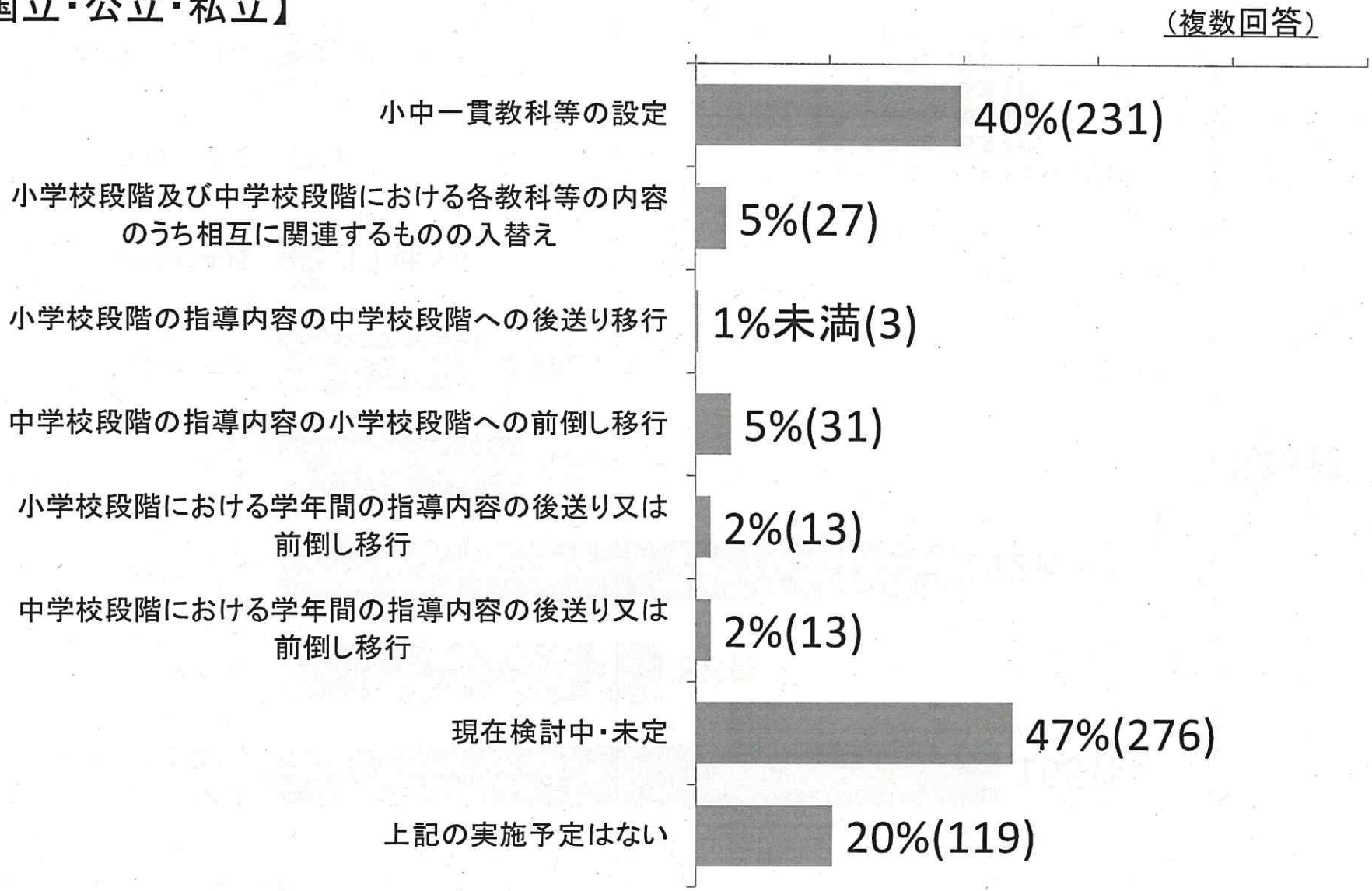


※1　このうち、国立1件、私立4件
※2　このうち、私立2件
※3　このうち、私立1件
※4　このうち、私立1件
※5　このうち、私立1件
※6　このうち、国立1件

※予定を含む。

併設型小学校・中学校における教育課程特例の導入状況

【国立・公立・私立】

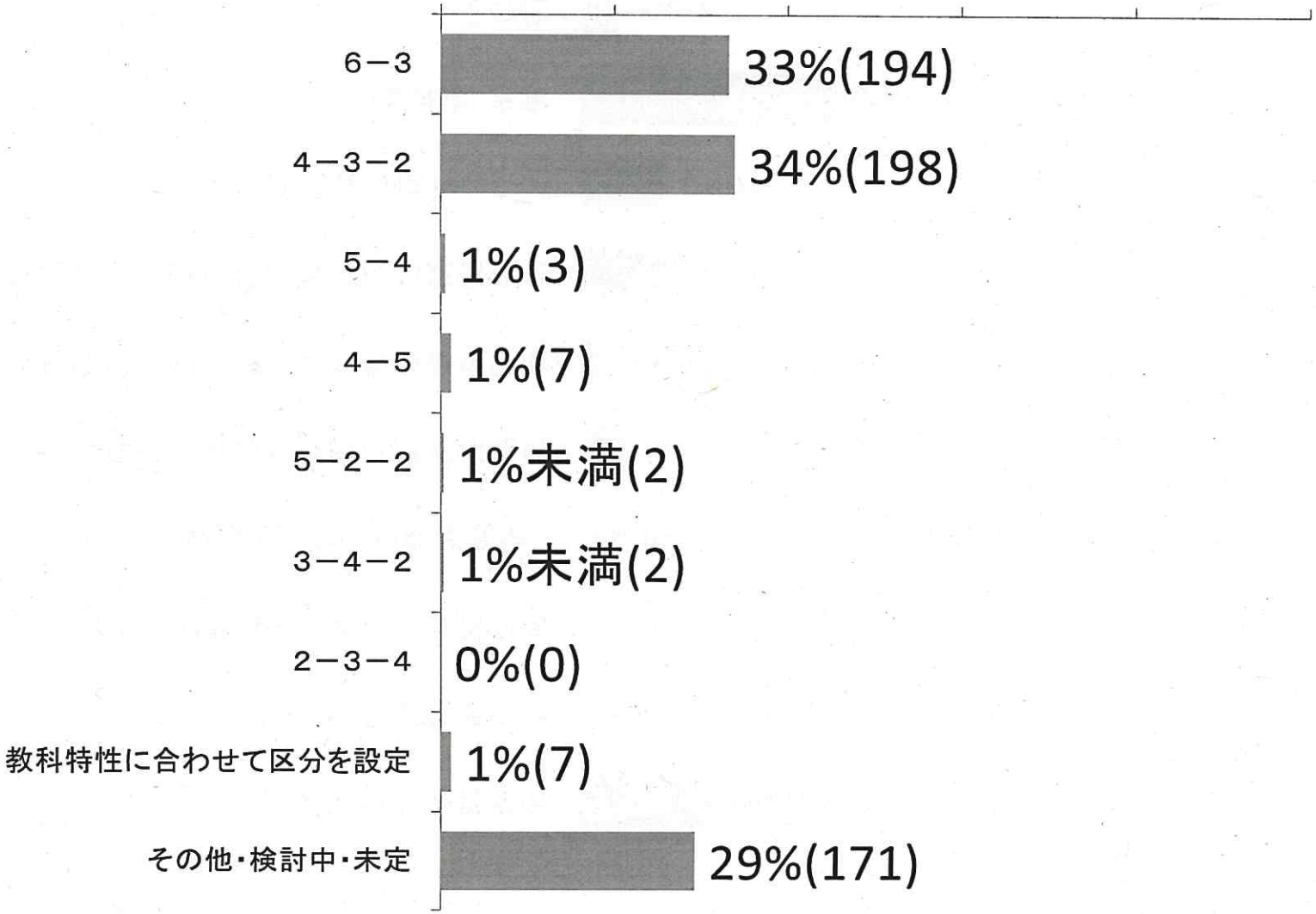


※予定を含む。

回答：584件（併設型小学校・中学校設置及び設置予定、設置検討中件数）

併設型小学校・中学校の学年段階の区切り

【国立・公立・私立】

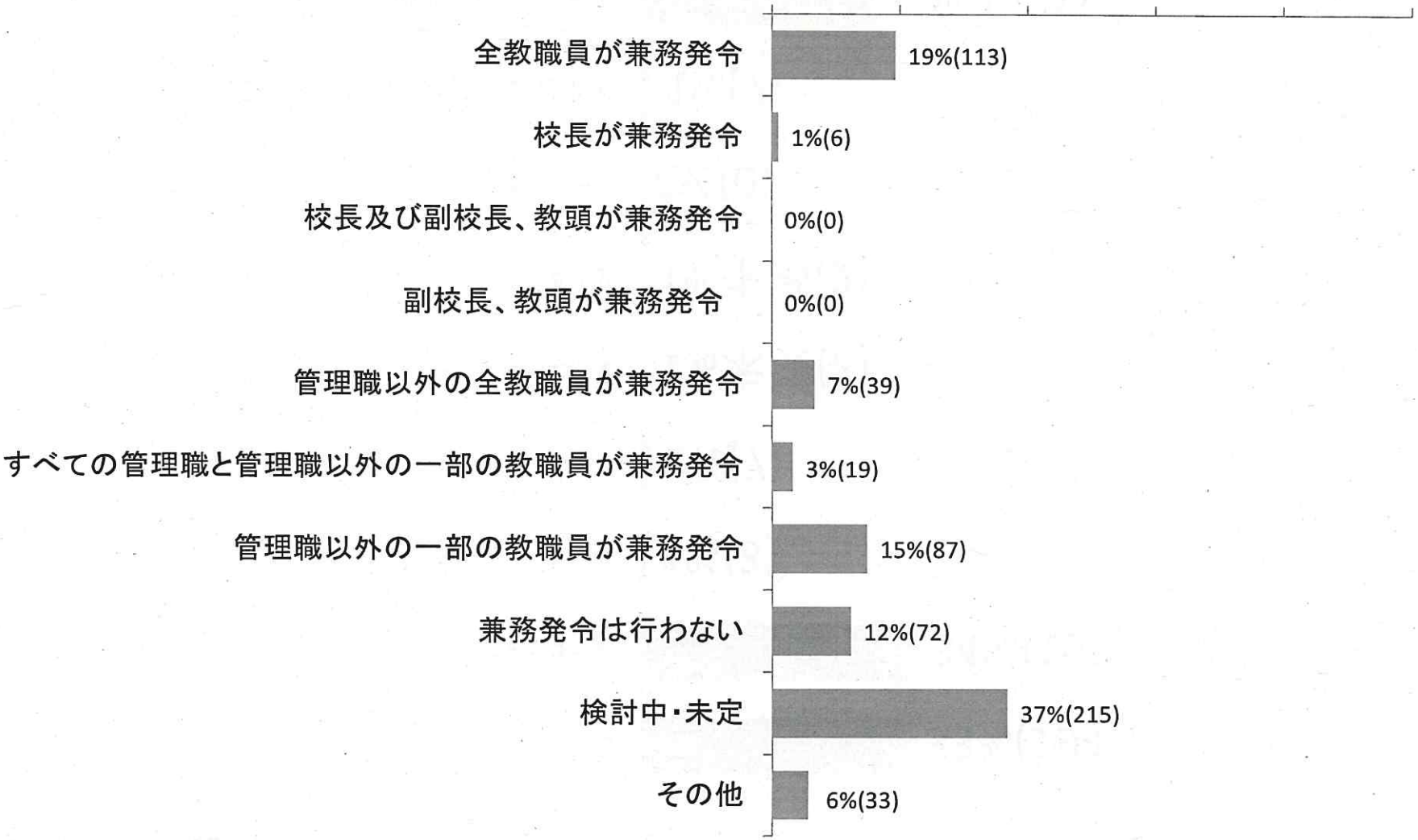


※予定を含む。

回答：584件（併設型小学校・中学校設置及び設置予定、設置検討中件数）

併設型小学校・中学校の教職員の兼務発令

【国立・公立・私立】



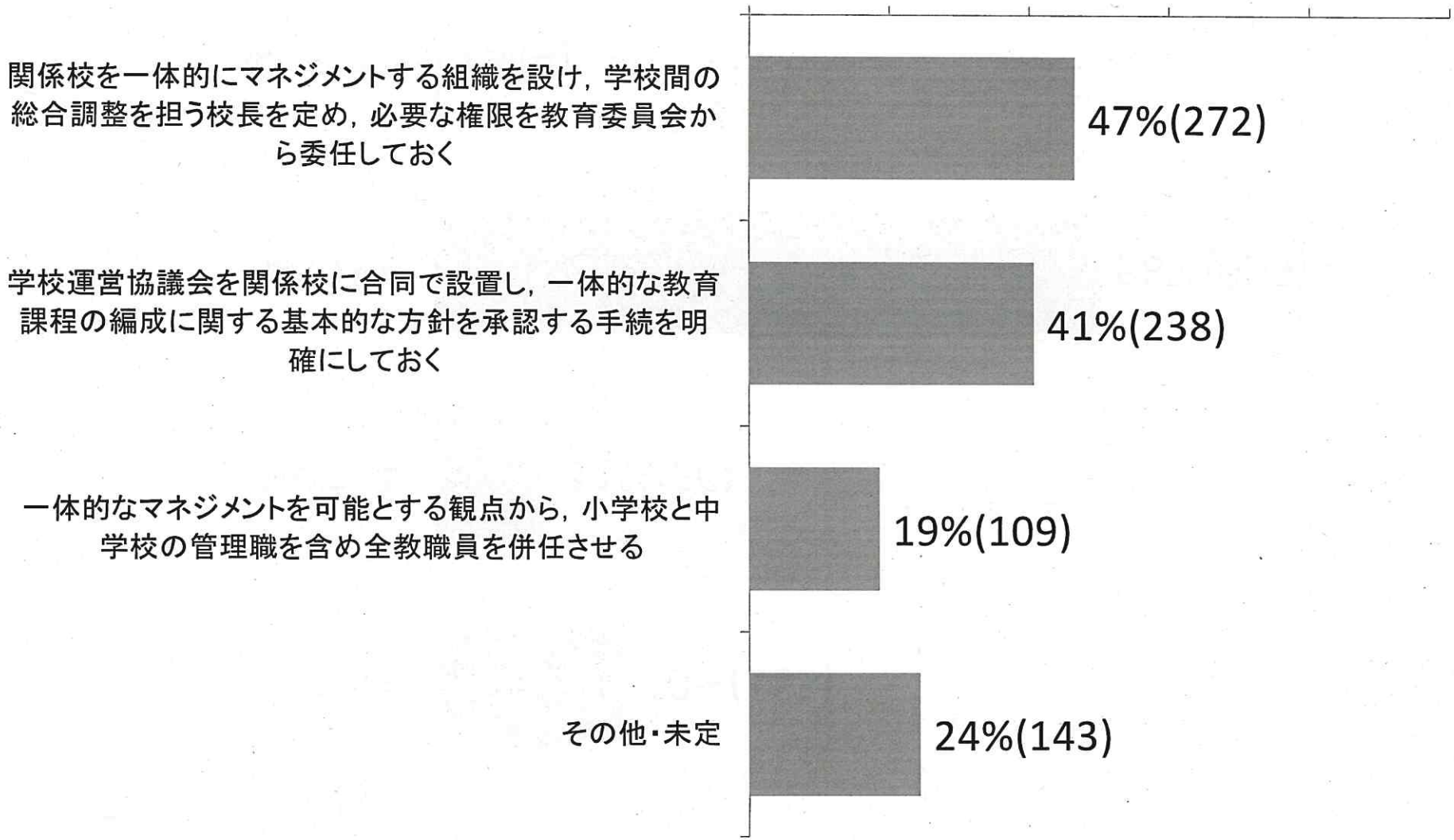
※予定を含む。

回答：584件（併設型小学校・中学校設置及び設置予定、設置検討中件数）

併設型小学校・中学校の運営の仕組み

【国立・公立・私立】

（複数回答）

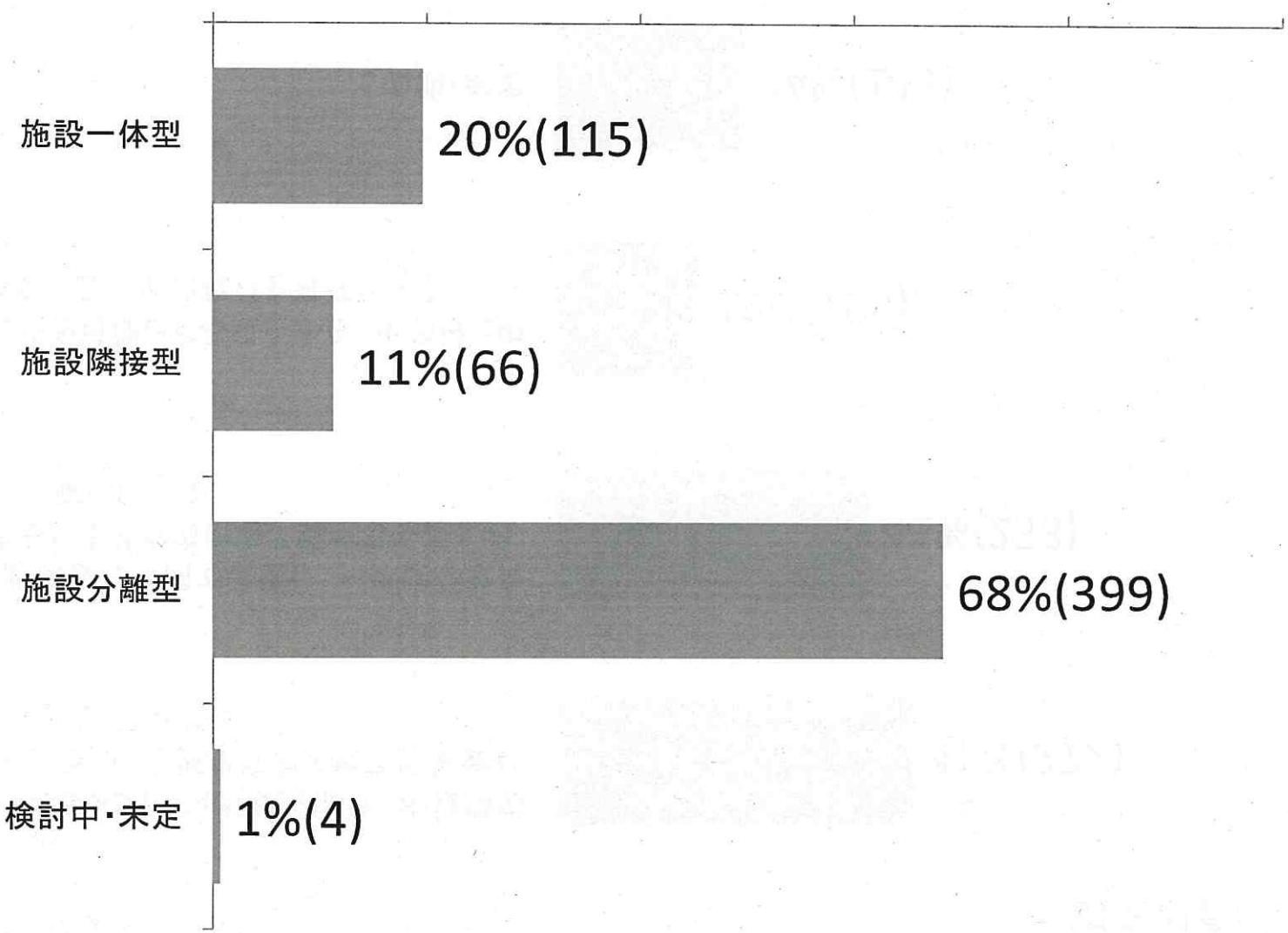


※予定を含む。

回答：584件（併設型小学校・中学校設置及び設置予定、設置検討中件数）

併設型小学校・中学校の施設形態

【国立・公立・私立】

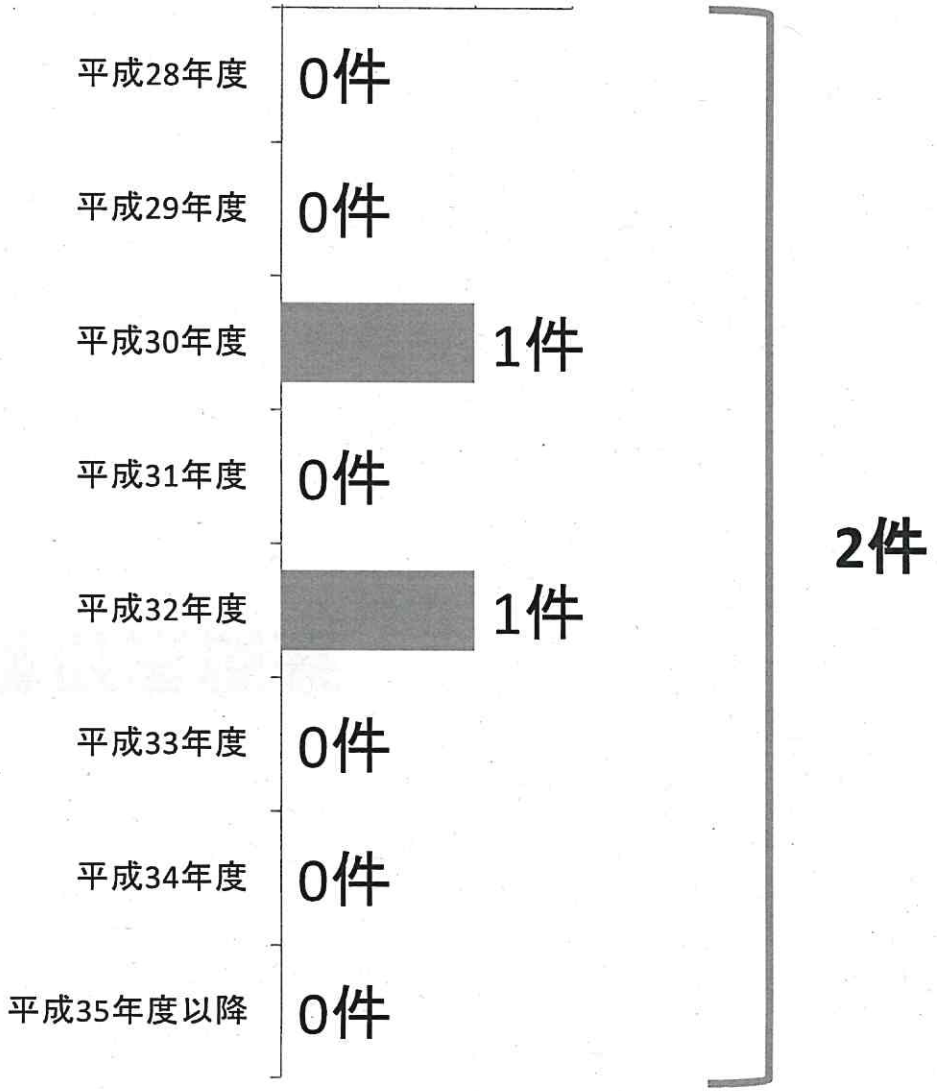


※予定を含む。

回答:584件(併設型小学校・中学校設置及び設置予定、設置検討中件数)

連携型小学校・中学校の年度別設置状況

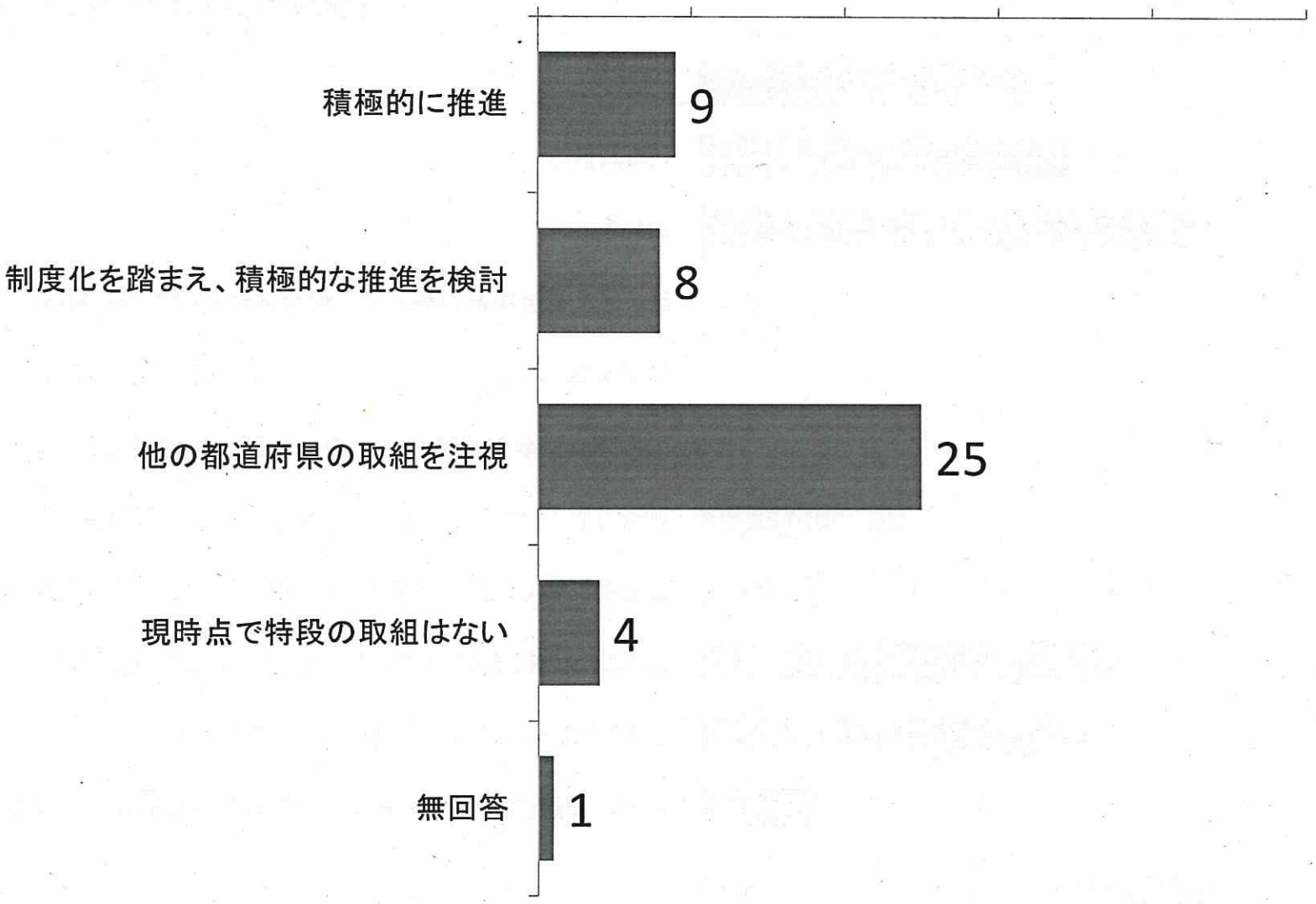
【国立・公立・私立】



V　都道府県調査

都道府県による小中一貫教育の推進状況

【公立】

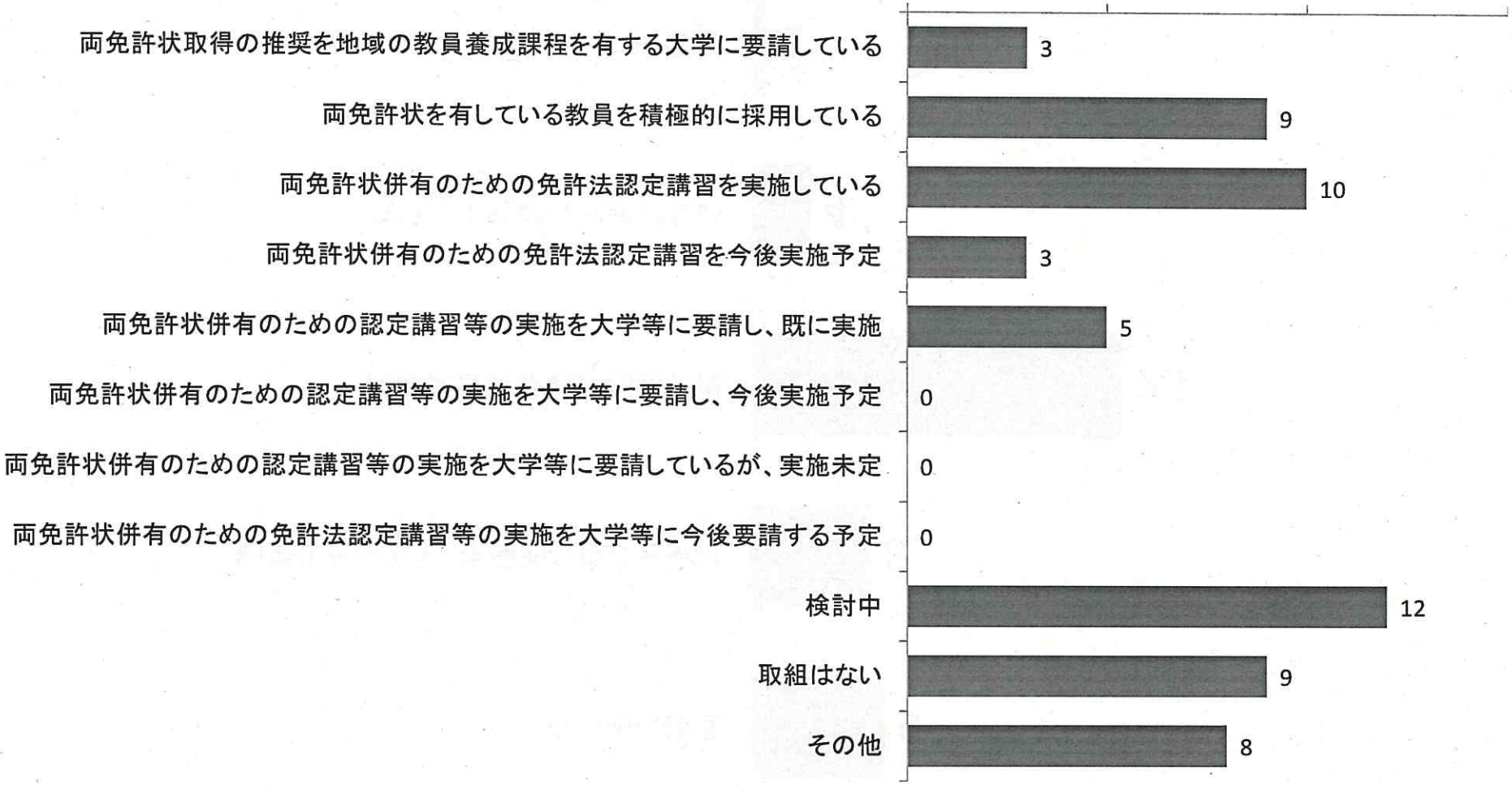


回答：47都道府県

小・中学校教員免許状の併有促進のための工夫

【公立】

（複数回答）



【その他自由記述で挙げられた主な取組】

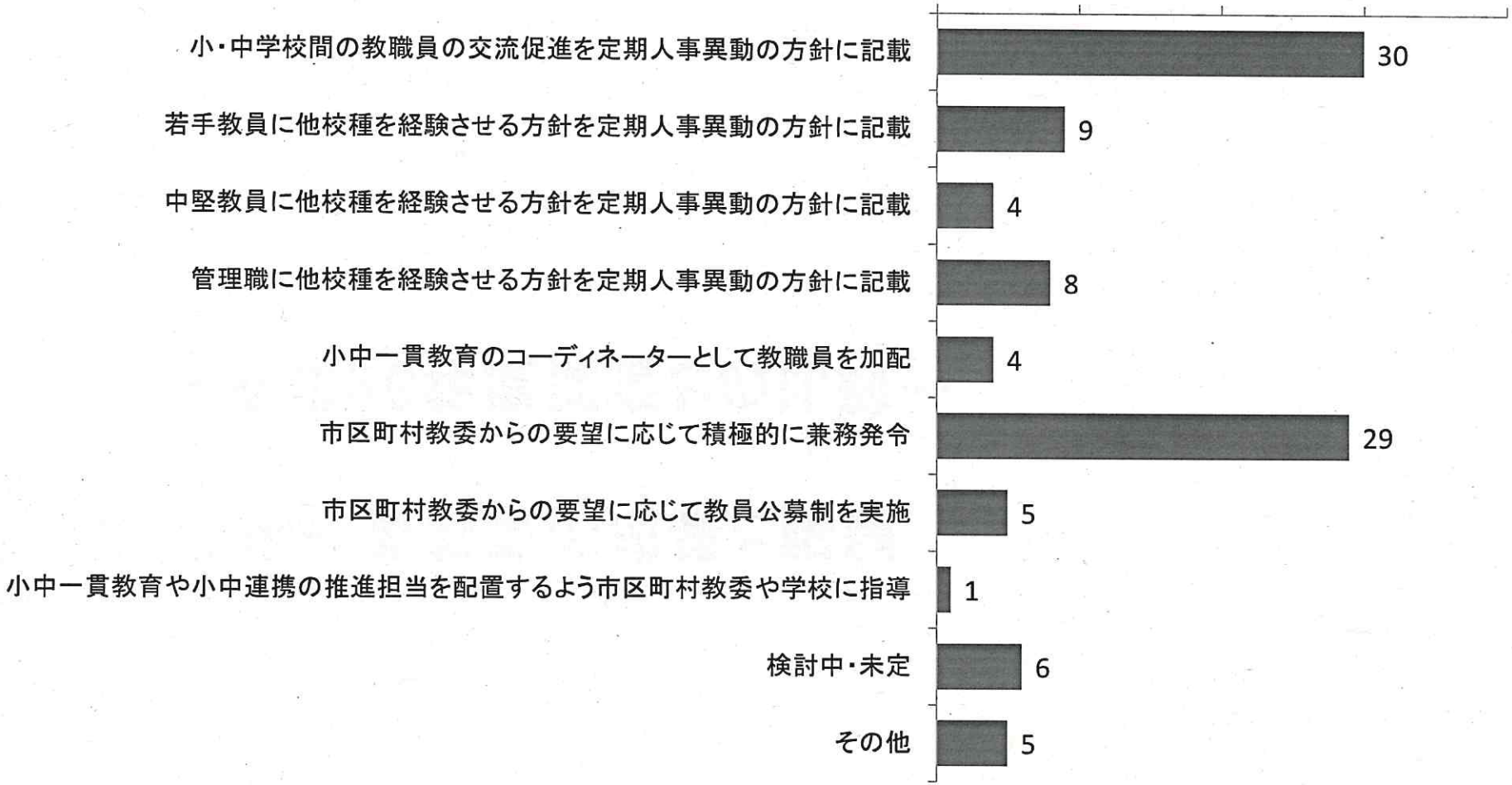
- ●大学と連携して，小学校教諭の中学校英語免許取得のための講習会を実施している。
- ●採用試験時、複数の教員免許状所有者には加点をする制度を設け、小・中学校教員免許状の併有を促している。
- ●小・中学校教員免許状の取得に必要な一部の講座（生徒指導や教育相談等）については、免許法認定講習を実施している。

回答：47都道府県

小中一貫教育を推進するための人事上の工夫

【公立】

（複数回答）



【その他自由記述で挙げられた主な取組】

- ●小中一貫教育の推進に限らず、教育活動の活性化、教職員の資質・能力の向上及び校種間連携の推進を図るため、校種間交流に努めている。
- ●小中一貫校における英語教育推進のための加配配置をしている。

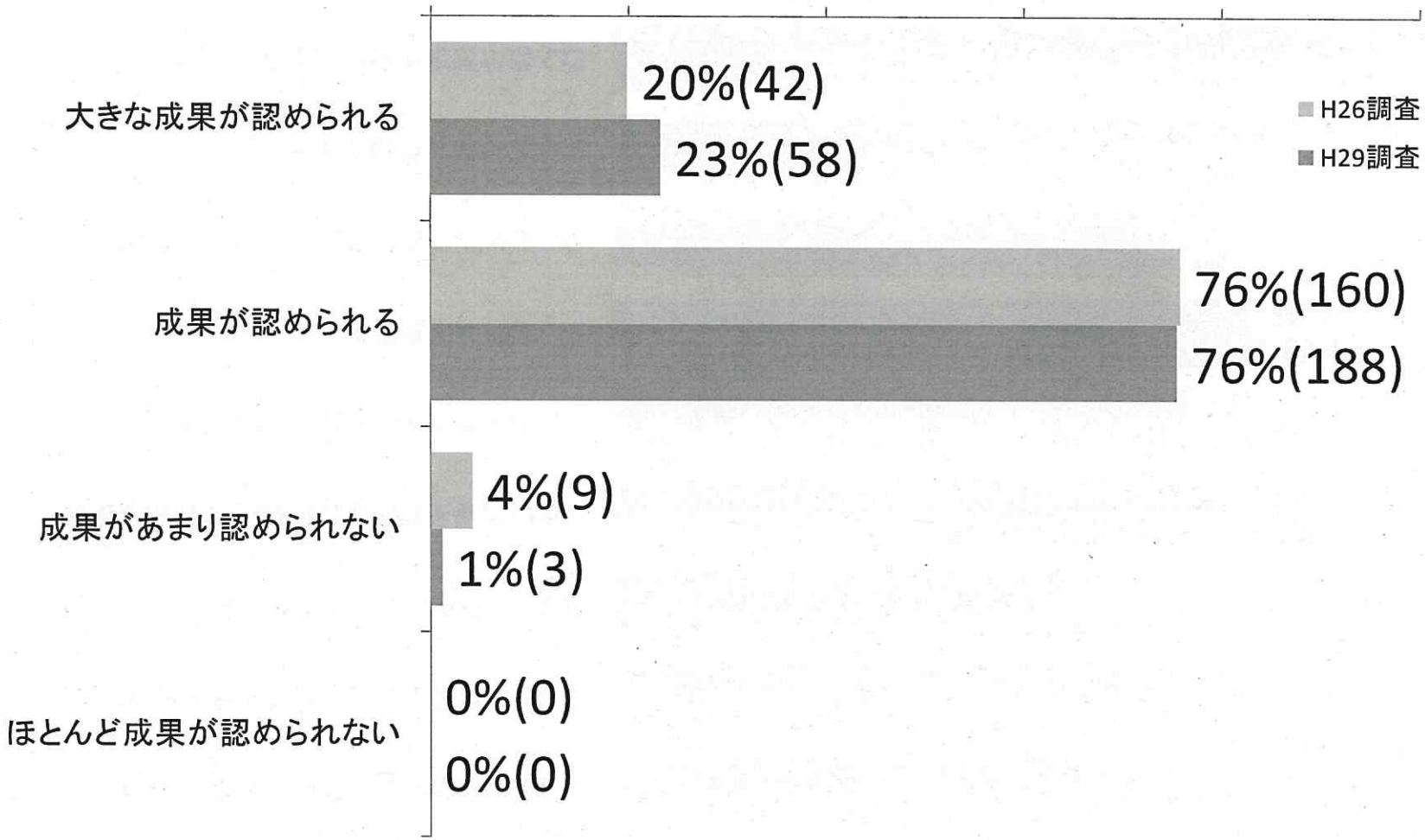
回答：47都道府県

Ⅵ　小中一貫教育の成果と課題

～平成26年度調査との比較～

小中一貫教育のこれまでの取組の総合的な評価（成果）

【公立】



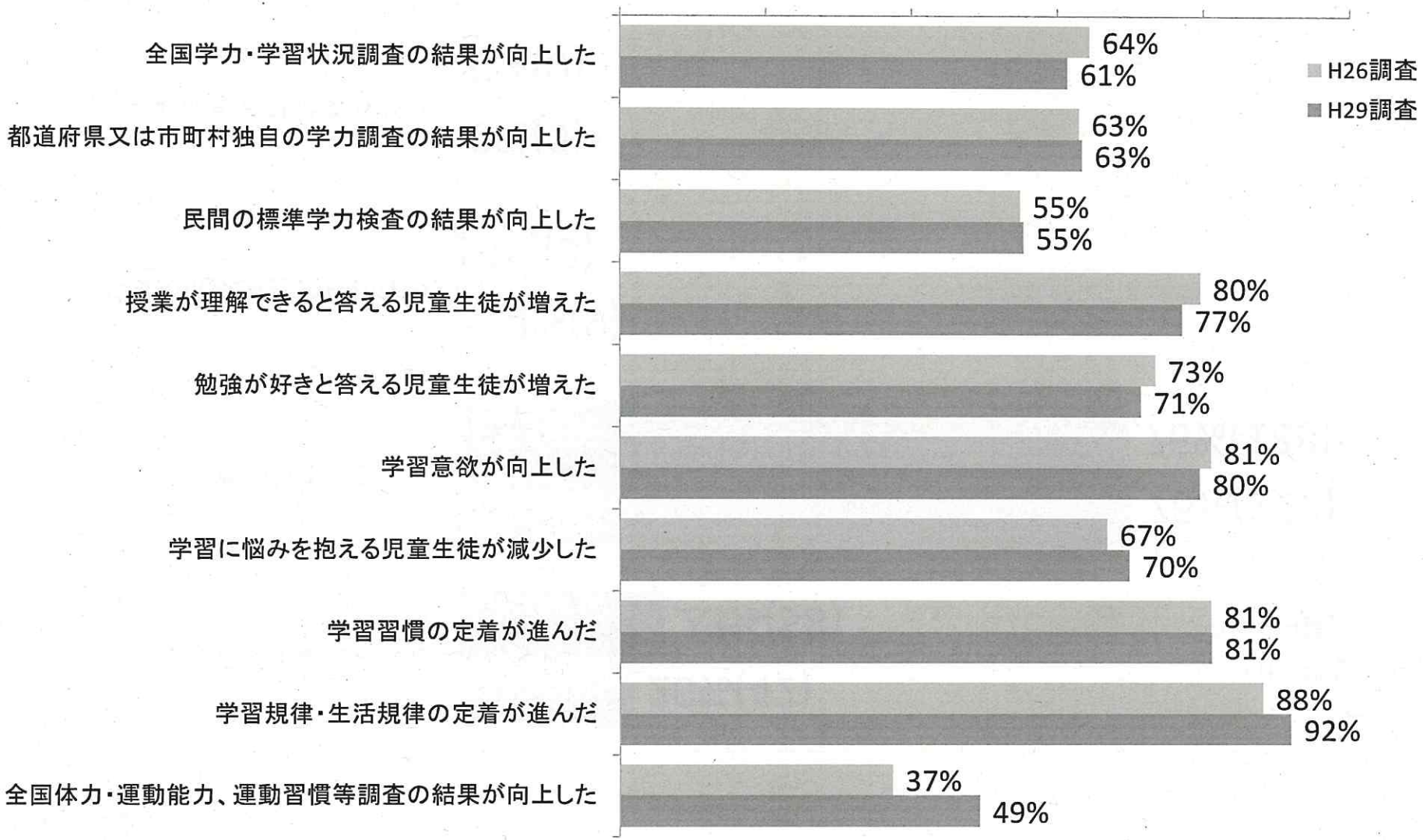
回答：H26　211市区町村（小中一貫教育実施市区町村）
H29　249市区町村（小中一貫教育実施市区町村）

小中一貫教育の成果①

【公立】

学習指導等

※「大きな成果が認められる」、「成果が認められる」と回答した割合



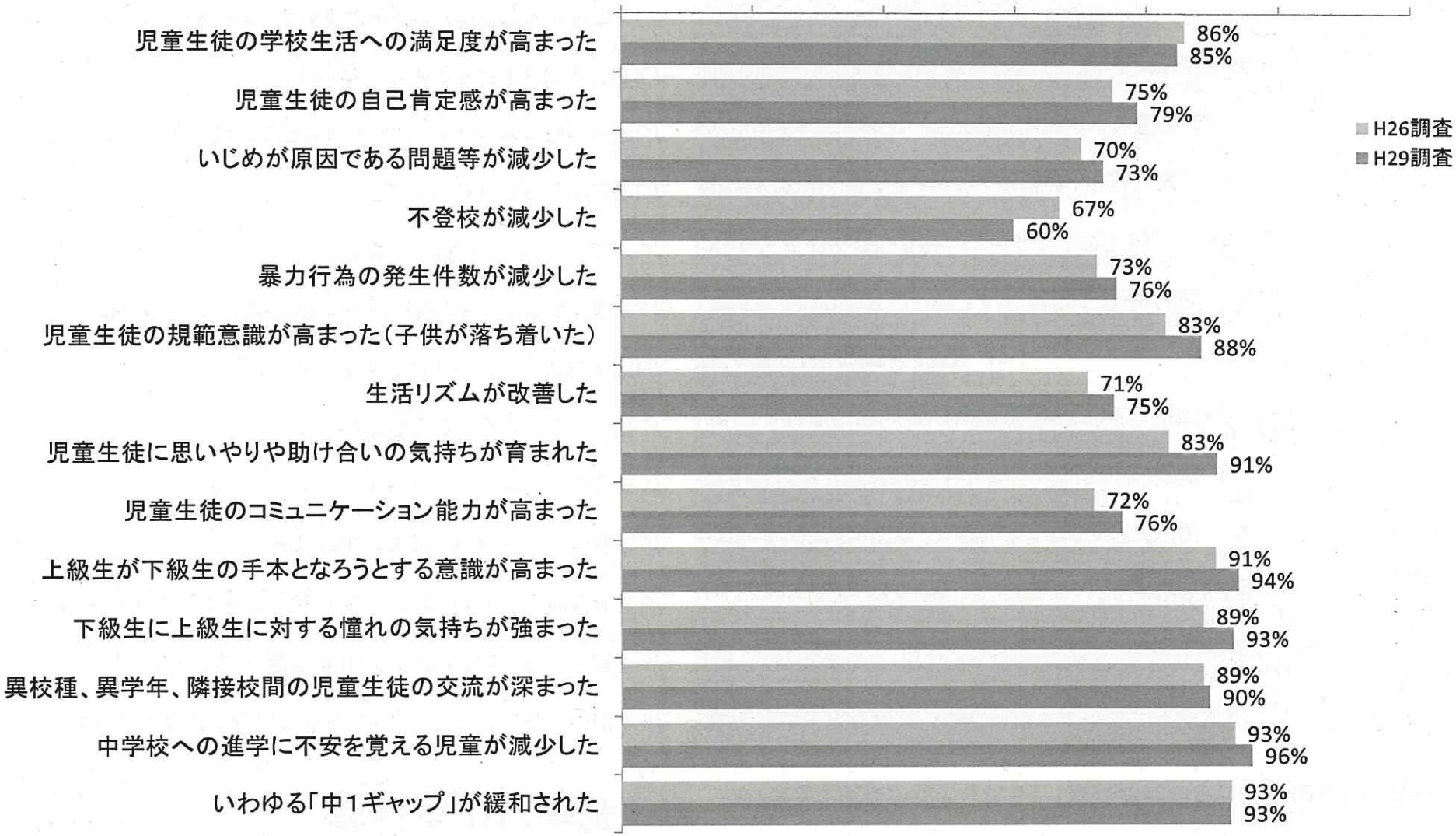
回答：H26　211市区町村（小中一貫教育実施市区町村）
H29　249市区町村（小中一貫教育実施市区町村）

小中一貫教育の成果②

【公立】

生徒指導等

※「大きな成果が認められる」、「成果が認められる」と回答した割合



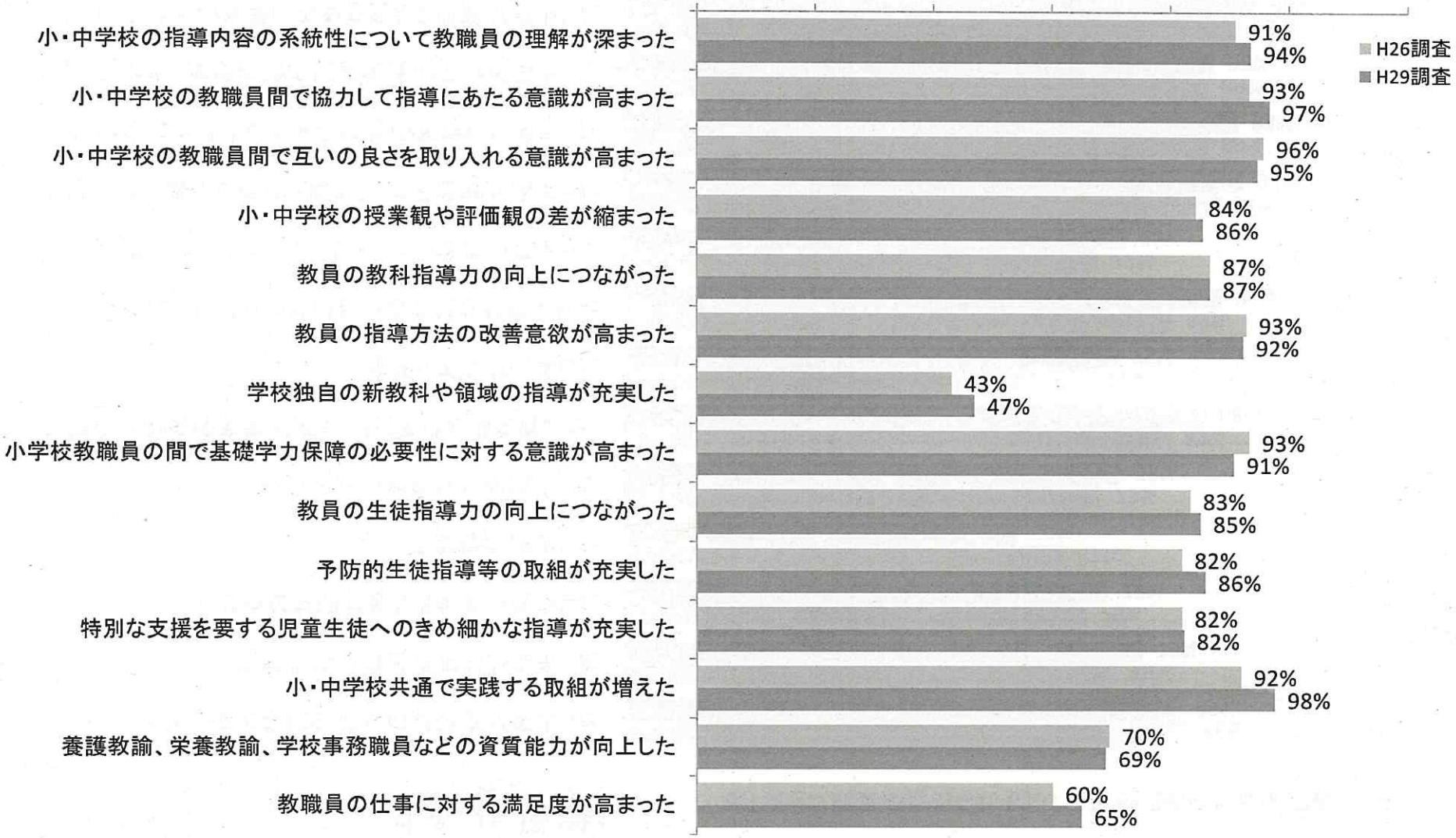
回答：H26　211市区町村（小中一貫教育実施市区町村）
H29　249市区町村（小中一貫教育実施市区町村）

小中一貫教育の成果③

【公立】

教職員の協働等

※「大きな成果が認められる」、「成果が認められる」と回答した割合



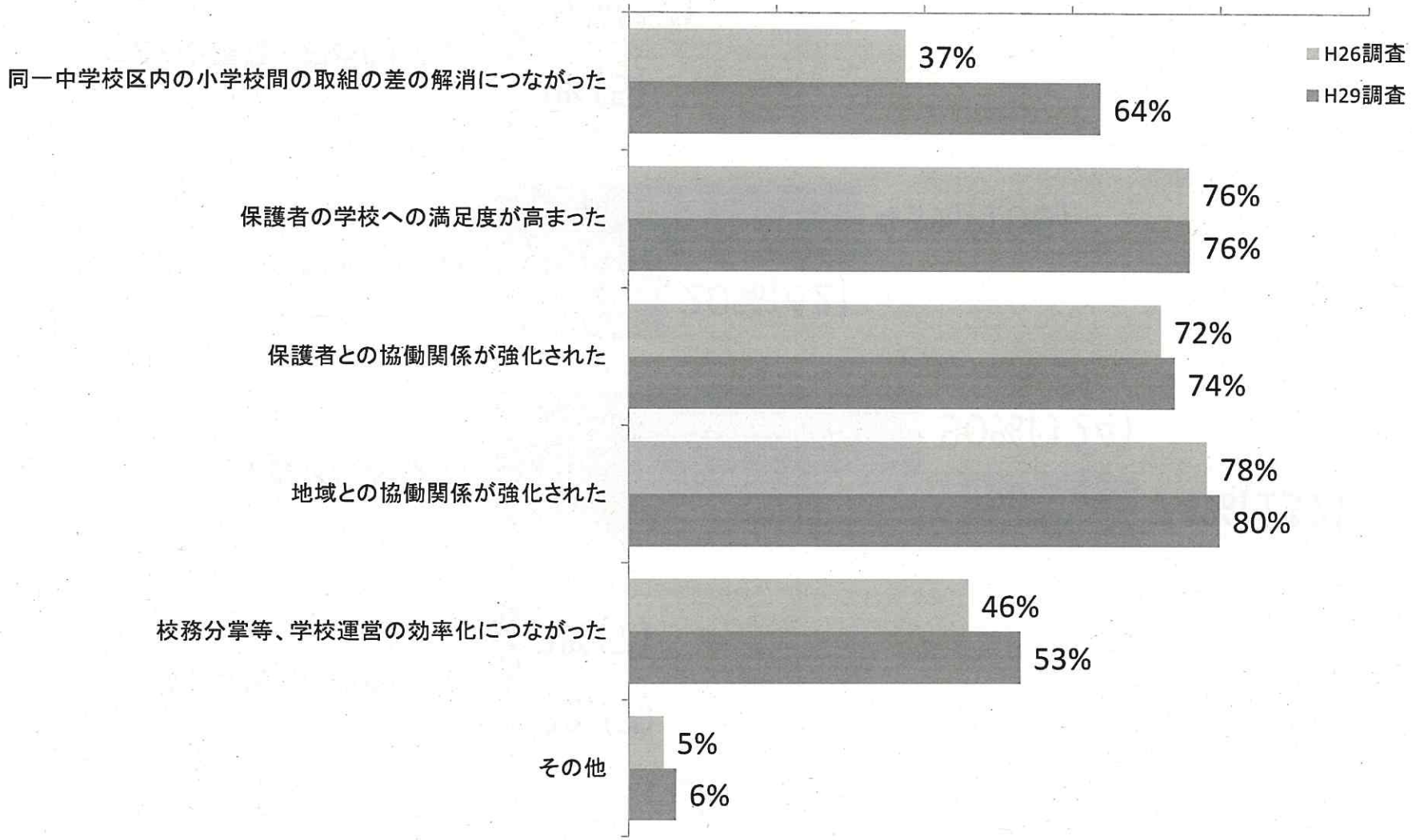
回答：H26　211市区町村（小中一貫教育実施市区町村）
H29　249市区町村（小中一貫教育実施市区町村）

小中一貫教育の成果④

【公立】

その他、学校運営等

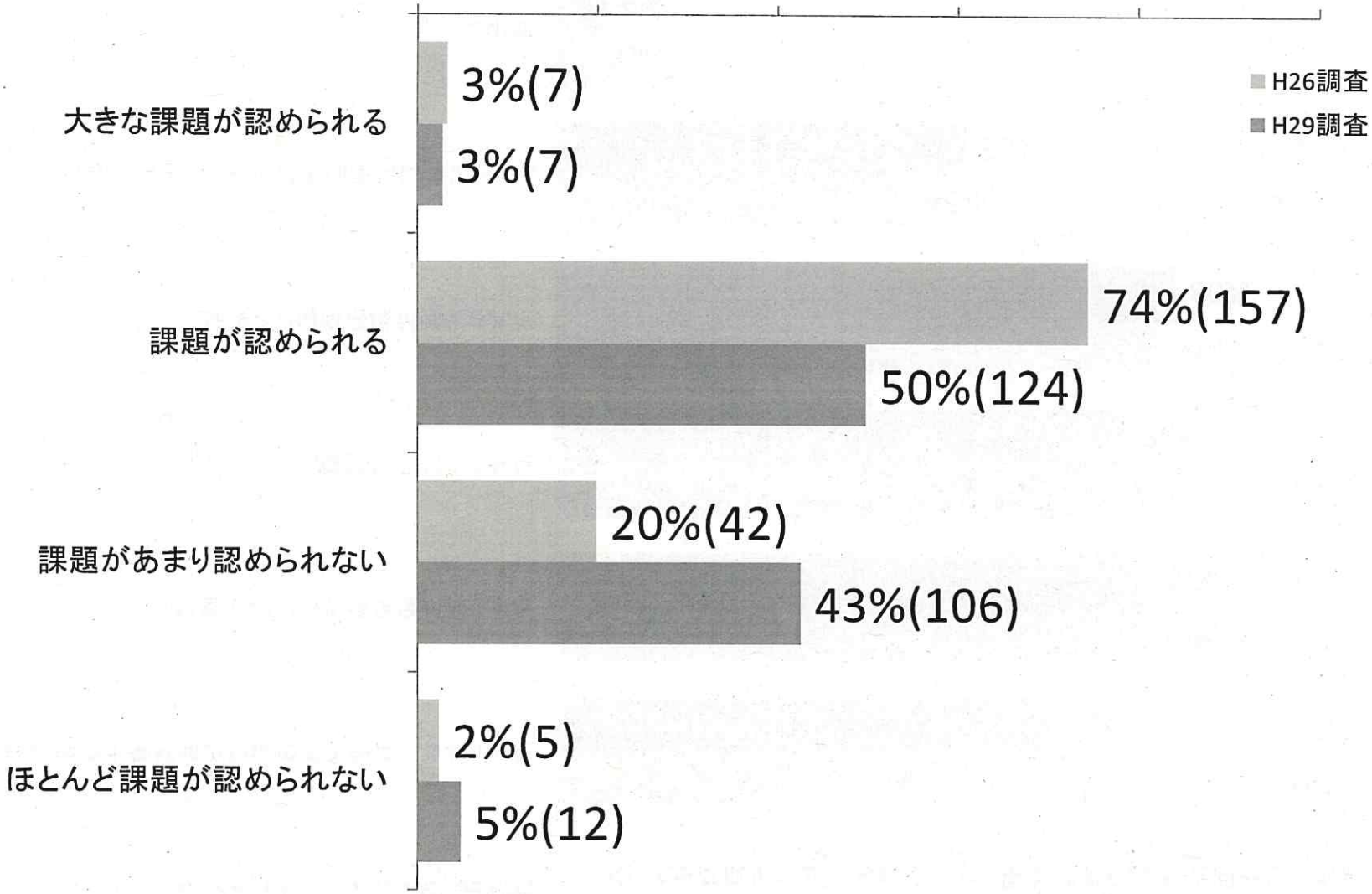
※「大きな成果が認められる」、「成果が認められる」と回答した割合



回答：H26　211市区町村（小中一貫教育実施市区町村）
H29　249市区町村（小中一貫教育実施市区町村）

小中一貫教育のこれまでの取組の総合的な評価（課題）

【公立】



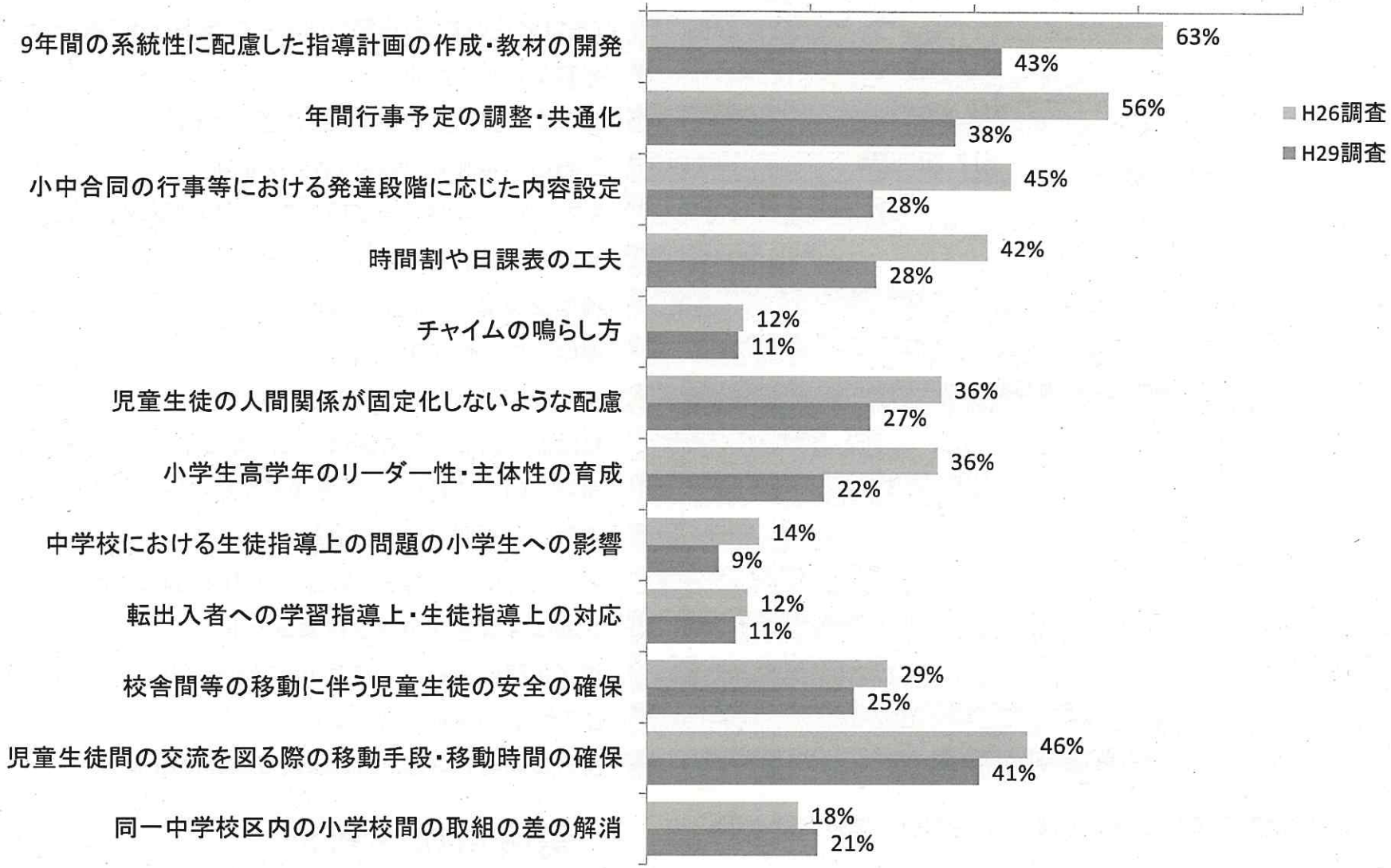
回答：H26　211市区町村（小中一貫教育実施市区町村）
H29　249市区町村（小中一貫教育実施市区町村）

小中一貫教育の課題①

【公立】

学習指導、生徒指導等

※「大きな課題が認められる」、「課題が認められる」と回答した割合



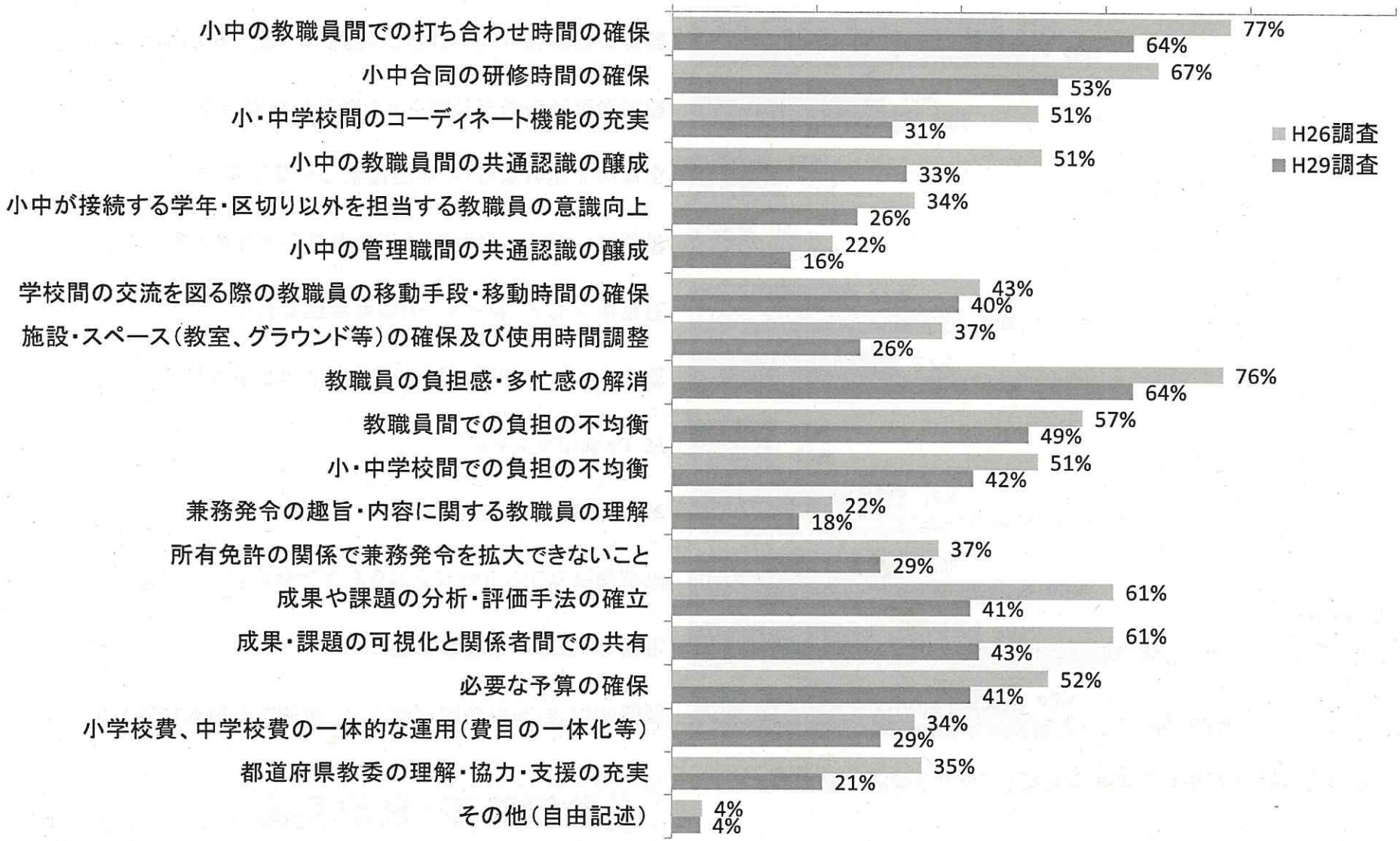
回答：H26　211市区町村（小中一貫教育実施市区町村）
H29　249市区町村（小中一貫教育実施市区町村）

小中一貫教育の課題②

【公立】

教職員の負担等

※「大きな課題が認められる」、「課題が認められる」と回答した割合



回答：H26　211市区町村（小中一貫教育実施市区町村）
H29　249市区町村（小中一貫教育実施市区町村）